

市町名 沼津市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯

令和2年度に大岡中学校区学校運営協議会と地域学校協働本部を設置。学校運営協議会で討議された「あるとうれしい学校支援例」の中から「家庭科授業・ミシン支援」をやろうという事で行動に移した。

活動名	家庭科授業・ミシンサポート			
実施箇所名	沼津市立大岡小学校、沼津市立大岡南小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、地域交流、地域人材の確保		
	開催日数等	年延べ授業時間 131時間	実施場所	学校家庭科室
	参加児童・生徒数	266 人	ボランティア数	16 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            小学校5、6年生の家庭科ミシン授業のサポートを地域住民が支援している。教員が1人で教えている家庭科授業をサポートすることにより、児童への細やかな対応、安全の確保に繋がっている。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・学校支援ボランティア申込書を作成し、地区センターでサポーター登録の受付をしている。            ・学校の授業の日程とサポーターの希望日を調整し、できる限り同じ学級に同じサポーターが回えるようにしている。            ・事前説明を行い、学校での活動を通じ活動に慣れてもらう。            ・サポーターは全員同じエプロンを着用し、一目でわかるようにしている。</p>			
	連携先	大岡連合自治会、大岡コミュニティ推進委員会、大岡地区社会福祉協議会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターが4～5名入る事により、ミシンのトラブルや質問にすぐに答えることができ、教員も児童もスムーズに作業を進めることができた。</li> <li>・子どもたちのよろこびの声と同時に、参加して頂いたサポーターの皆さんから「たのしかった!」「充実していた」との声があった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日の時間帯であるため、サポーターの人数確保が難しい。</li> <li>・活動が増えることにより、サポーターの把握や名簿の作成、日程調整等に時間を要し、事務作業が多くなってしまった。</li> </ul>			
備考	ミシンサポートのノウハウを活かし、花壇の手入れ、行事引率・付き添い等、支援活動に広がりを見せている。			

参考URL

[www.e-ohoka.com](http://www.e-ohoka.com)

市町名 沼津市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 令和3年度に片浜中学校区学校運営協議会と地域学校協働本部を設置。学校からキャリア教育として職場体験学習の場について支援要請があり、地元企業へ協力活動を実施した。

活動名	片浜地区職場体験学習			
実施箇所名	片浜地区内企業			
活動の概要・特徴・工夫	目的	体験学習の機会創設、地域交流、地域人材の確保		
	開催日数等	2日間	実施場所	各企業
	参加児童・生徒数	59人	ボランティア数	5人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            中学2年生が地域企業に2日間の職場体験学習を行ったもの。職場体験をとおり、地域への理解を深めるとともに、普段の授業では体験できない学習機会を提供するもの</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・地域住民主体である地域学校協働本部が主導することで、企業と円滑に調整することができた。</p>			
	連携先	片浜地区コミュニティ推進委員会、地域企業、学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生は普段体験することの少ない「仕事をする」というリアルな体験を味わうことができた。また、地域企業への理解を深めることもできたと感じる。</li> <li>・受入企業は若い人材との交流をとおり、若者の考えや価値観等を知る良い機会になったと思う。</li> <li>・地域学校協働本部委員が企業へ挨拶まわりをするなかで新たな発見を見つけたり、ネットワークを構築したりすることができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の訪問希望があるため、マッチングしない企業がどうしても出てきてしまう。そうした企業をさらに知ってもらう(興味を持ってもらう)ことが必要と感じた。</li> <li>・地域主導で進めていたため教員から企業への電話等は省略したが、企業からは学校から連絡がないことへの不満が出た。地域でできることは地域で行い、それが教員の業務削減にもつながるということを理解していただく必要がある。</li> </ul>			
備考	47社受け入れ可能かアンケートを行い、27社より受け入れ可能の返事をいただいた。そのうち20社受け入れをお願いした。			
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 27 年度



活動名	プール清掃・整備作業			
実施箇所名	三島市立東小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	児童が安全に学習したり、快適に過ごしたりすることができるようにするため。		
	開催日数等	1回ずつ	実施場所	プール・校庭
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	15人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水泳の授業や運動会の前に、環境整備に協力し、子供達が安全に授業や行事を行えるようにしている。</li> <li>運動会前の環境整備は、地域学校協働本部の自発的な活動である。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感染症予防のため児童と合同では行わず、6月11日(土)の休日に作業を行った。おやじの会ともタイアップし、合同で進めた。</li> <li>5月28日(土)には、地域学校協働本部「東小本気サポート隊実行委員会」単独で東側フェンス周りの草刈り・整備を行った。</li> </ul>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃の行き届いたプールで、プール開きを行い、その後も安全に水泳の授業を行うことができた。</li> <li>運動会前の整備作業により、景観的にはもちろんのこと、校庭の風通しが良くなり、熱中症予防にも効果があった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候に左右されるため、人員の確保や延期の連絡等が難しい。</li> <li>感染症拡大防止対策のため、今まで行っていた放課後学習支援や交流遊び等の計画が難しい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

開校150周年記念事業として、記念式典の開催、校庭内にある子供たちの人気の遊び場となっていたものの現在、老朽化で使用不可となっている築山「ちから山」修復に向けたプロジェクトの実施を主な目的に実行委員会が立ち上がった。そこに、地域学校協働本部メンバーが加わっている。

活動名	開校150周年記念事業			
実施箇所名	三島市立南小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、「地域の学校」づくり		
	開催日数等	計4回	実施場所	三島市立南小学校
	参加児童・生徒数	200人	ボランティア数	20人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 本校は本年度開校150周年を迎え、その記念事業として記念式典、「ちから山」事業、沿革誌編さんを計画し、その実行母体として「150周年実行委員会」を組織し、そのメンバーに地域学校協働本部のメンバーが加わった。これまで計4回の実行委員会を開催し、各事業の進め方について、協議を行った。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; 「地域の学校」として、実行委員会がイニシアチブを取り、記念式典の企画運営(全校児童および6年生保護者などが参加)を行ったほか、「ちから山」修復のための寄付金集めに際しては、メンバーのネットワークをいかして、地域の自治会・企業・個人と幅広く募り、目標金額に近い額が集まりつつある。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念式典は、本校の伝統行事「レパートリー発表会(6年生の器楽演奏)」と同時開催とした。市長はじめ、卒業生や地域住民も来賓として招き、150周年を祝う、すばらしい会となった。</li> <li>・「ちから山」修復の寄付金集めでは、実行委員メンバーでもある自治会長が中心となって敬老会などの地域行事とも連携するなど、実行委員会メンバーの「子供たちのために『ちから山』を復活させたい」という熱い想いが、実を結びつつある。</li> </ul>			
課題等	学校内の本事業担当以外の教職員や子供たち、そして保護者に、どのように当事者意識をもたせ、本事業に参画してもらうかが課題となった。			
備考	「ちから山修復」事業および「沿革誌編さん」については、現在も事業継続中で、次年度初頭までの完成をめざして。			

参考URL

<https://www.youtube.com/watch?v=hwWCqaomLYc>

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 28 年度
--------	----------

活動名	読み聞かせ・図書室整備			
実施箇所名	三島市立北小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	32	実施場所	各教室、図書室等
	参加児童・生徒数	667 人	ボランティア数	45 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域の方で構成されている読み聞かせボランティア「ちちんぷい」が、年間4回程度、朝の時間を使って各学級で読み聞かせを行っています。また、年間1回程度は、ペープサートや大型絵本等を使い、効果音を付けながら行う読み聞かせも実施しています。</li> <li>・保護者や地域の方で構成されている図書室整備ボランティア「図書室応援隊」が、月に1～2回程度、図書室の掲示物の飾り付けや本の整理の手伝いをしています。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <p>学校と各ボランティア団体代表者が連携し、活動日や活動内容の連絡は、学校から「連絡メール」を使って配信し、代表者の負担が軽くなるようにしています。</p>			
	連携先	読み聞かせボランティア、図書室ボランティア、学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせでは、子供の実態に応じて選書してくれるので、読み聞かせを楽しみにしています。読書への興味・関心が高まり、学校評価で「読書が好き」と答えた子供の割合は79%に達しています。</li> <li>・図書室整備のボランティアの方々が、毎月季節に合わせた掲示・飾り付けをしてくれるので、子供の目を引き、図書室に足を運びたくなるような環境になっています。</li> </ul>			
課題等	ボランティアの人数が減ってきているため、読み聞かせの実施回数が減ってしまいました。ボランティアの人数を確保することが課題です。			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 14 年度

立ち上げ経緯

三島市スクールガード事業より地域社会全体で学校安全に取り組む体制を整備し、安全で安心できる学校を確立させるため、地域から募集し集まったメンバーにより現在も毎朝小中学校生の登下校の見守りが行われている。

活動名	スクールガード			
実施箇所名	錦田小学区(18カ所)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	登下校時の見守り活動通学路の点検と改善		
	開催日数等	小学校授業日	実施場所	学区の危険箇所
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	25 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・錦田小PTCA(地域学校協働活動)の一つに位置づけられています。子供たちが学校に通う日は毎日登校を見守ってくださっています。登下校だけでなく、1年生の交通安全教室や引き取り訓練などにも参加して下さり、安全な登下校について地域の方も一緒に大切さを話して下さいます。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の見守りだけでなく、通学路の点検も行い、ストップマークの張り替えなども行ってくださっています。</li> <li>・6年生が行う「交通安全リーダーと語る会」に参加して下さり、一緒に学校の安全について考えてくださいます。ここで出た話については、自治会長と連携を取り、改善できるよう市に働きかけてくださいます。</li> </ul>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが安心して登校できるようになっています。毎日顔を合わせるのを楽しみに登校している子供もいました。また、交通安全教室やまち探検への引率補助等、学校が、お願いしたいと言うと、快く引き受けて下さり、子供たちも顔見知りの方が近くにいる安心感があります。</li> <li>・通学路の点検も積極的に行って下さり、安全な通学路確保につながっています。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の中には、道路幅だけでなく、歩道の幅も狭い場所も少なくなく、朝夕は通勤の自動車やバイク、自転車などが多いため、児童の通学の安全確保には、スクールガードの活動が欠かせない状況ではありますが、ボランティアの高年齢化に伴い、人数の確保が難しいことが挙げられています。ボランティアの輪を広げていくことが課題と考えています。</li> </ul>			
備考	<p>子供たちがコロナ禍でマスクをつけての登下校では、感謝の気持ちが伝わらないのではと感謝の会を開き、会議室を感謝の言葉で飾り付け、オンラインで各学級とつなぎ、感謝の気持ちを伝えました。子どもたちとボランティアの距離が近づき、3月9日にはサンキューの日として錦田小の「ありがとうの木」にたくさんの感謝の言葉が飾られました。</p>			

参考URL

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	坂小学校は、平成13年度ごろから、坂地区活性化委員会と連携しながら、子どもを地域で育ててきた。平成26年度から学校支援地域本部として、箱根西麓に位置する坂地区の「地の利を利用した農事活動」に力を入れ、地元農家さんの協力の下、遊休農地を有効利用し、「作物を育て、収穫し、食したり、販売したり」する農事活動を行うようになった。令和2年度から地域学校協働本部となった。
--------	---

活動名	農事体験			
実施箇所名	坂小学校(坂小農園)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の特性を生かした農事体験活動		
	開催日数等	年10回程度	実施場所	坂小学校(坂小農園)
	参加児童・生徒数	72人	ボランティア数	15(延べ100程)人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <p>地域の方から畑(遊休農地を有効利用)を借り、様々な農事体験に取り組んでいる。年間を通して、多種多様な作物(ジャガイモ・スイカ・トウモロコシ・大根・ブロッコリー等)を育てる活動している。自分たちで育てた野菜を食べる「食育」にもつながっている。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫した野菜は給食の材料にも使用されているとともに、保護者等への販売体験もすることができる。</li> <li>・効率よく育てるための方法や苦勞を教えてもらうことで、食べ物を大切に作る心を高めるようにしている。</li> <li>・家庭科の授業・クラブ活動等の調理実習にも活用している。</li> </ul>			
	連携先	坂小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂地区の特色を生かした活動として、地域の方々、保護者と連携した教育活動の場となっている。(地域の絆づくりとなっている)</li> <li>・野菜を育てて収穫するだけでなく、目的を持って販売体験まで行うことで、キャリア教育にもなっている。</li> <li>・地域(身近)の大人と触れ合う機会が増え、多様な体験・経験の機会が増えるとともに、人間関係力の向上につながっている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土作りを行うなど、児童が活動を行うにあたって、事前準備を行う必要がある。(事前準備に時間がかかる)</li> <li>・多くのボランティアの方々の参加、指導は欠かせない。日程調整が必要になってくる。</li> <li>・コーディネーターや実行委員の人材育成(後継者の育成)が課題となっている。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

地域の子どもたちや小学校のためにできる活動を実施したいという考えから発足された。自身の子どもが卒業しても支援を続けたいというPTA運営委員経験者やおやじの会と連携しながら、徐々に活動を広げていった。

活動名	職業講話			
実施箇所名	三島市立佐野小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(キャリア教育の一環として)、地域の人材活用		
	開催日数等	年1回	実施場所	教室、パソコン室、ランチルーム、少人数教室
	参加児童・生徒数	29人	ボランティア数	4人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; キャリア教育の一環として、地域で活躍する大人に職業についての講話を依頼している。「職業」という観点を通しながら、めあてや目標に向かってよりよい方法を模索しようとする生き方についての話題に広がりを見せている。保護者でも教職員でもない地域に住む身近な大人から、夢や目標達成についての話を聞けるため、支援をお願いした。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・4名の講師による講話により、複数の話を聞くことができる。 ・6～10名程度の少人数編制のため、講師とのやりとり(児童からの質問や講師からの問いかけ等)を行いながら話を聞くことができる。</p>			
	連携先	学校支援ボランティア		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は関心をもって話を聞くことができ、自分の夢や目標の達成について、前向きに捉えようとする事ができる。</li> <li>・職業についての話だけではなく、人との関わり方や物事を捉える視点等についての幅広い話を聞くことができるため、児童も真剣に自身の生き方について考えようとする事ができる。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアと指導者との事前打合せを実施することが難しい。</li> <li>・ボランティア同士も互いの講話内容について知りたいという要望があるが、時間や場の設定が難しい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-e/m108>(取組内容については学校ブログで配信)



市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

立ち上げ経緯

平成27年度に中郷小学校支援地域本部(現 中郷小地域学校協働本部)が立ち上がった。その年に、学校からの要望で「読み聞かせボランティア」を募ることになり、翌28年度に集まってくださったボランティア5名で活動を開始した。

活動名	朝の読み聞かせ			
実施箇所名	三島市立中郷小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	年8回(2回中止)	実施場所	学校教室
	参加児童・生徒数	391人	ボランティア数	9人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 地域学校協働本部が、毎年年度初めに保護者へのお便りや地域の回覧板でボランティアを募っている。ほとんどの方が継続して参加して下さっている方である。朝の時間(15分間)に各教室で、低学年は絵本や紙芝居、高学年は物語や授業に関連した題材の本の読み聞かせを行った。年間で各クラス5~7回実施(うち2回は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み中止)。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; 新型コロナウイルスのため、計画した活動が中止になってしまう状況の中、クラスごとに実施する読み聞かせ活動は続けることができた。 他の活動や授業のボランティアを募る際、読み聞かせボランティアの方の地域ネットワークを活用し、人材を紹介してもらうことがあった。</p>			
	連携先	地域学校協働本部(中郷小学校)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の時間に本の世界に浸ることで、穏やかな雰囲気落ち着いて一日をスタートする児童の姿が見られた。</li> <li>保護者や地域の方が継続的に児童と関わるため、「〇〇くんのお母さん」「去年も本を読んでくれたね」と児童から声をかけたり、「みんな大きくなったね」「もうすぐ卒業で寂しいね」とボランティアの方が話してくれたり、児童の地域への所属感が増した。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアをより広く募集し、毎回全クラスで行うことができるようにしたい。</li> <li>児童の読書離れが進んでいるため、低学年用の図書室を北校舎に作る予定。中郷小150周年の企画の一つとして、読み聞かせボランティア、保護者、地域の方と連携して、リサイクル本の募集、環境整備等を進めていきたい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-e/m109>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 26 年度

立ち上げ経緯

沢地小スクールガードは、「地域学校協働本部」の前身である「学校支援地域本部」が平成26年に発足する前から活動を開始、令和4年度で18年目となる。現在、登録されている方は21名、そのうち11名は15年以上継続して活動している。

活動名	子供見守り活動 「スクールガード」			
実施箇所名	三島市立沢地小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	平日	実施場所	校区の通学路
	参加児童・生徒数	人	ボランティア数	21 人
	<概要・特徴> 児童の登下校の時間帯に合わせ、通学路の危険箇所に立ったり、登下校と一緒に付き添ったりして、児童の安全を見守っている。			
	<活動上の工夫> 本校の地域学校協働本部は、活動内容によって「学習支援活動」・「校内環境整備」・「子供見守り活動」・「放課後学習支援」の4つに分けられている。上述の活動は、その中の「子供見守り活動」を担当する方々が行っている。 ・交通安全や防犯のためだけでなく、児童の「心の健康」のために、元気なあいさつができる子供の育成にも力を注いでいる。 ・学校の年間計画の中に「スクールガード紹介の会」や「スクールガード感謝の会」を位置付けたり、「交通安全を語る会」に参加していただいたりするなど、児童とスクールガードの方々との交流を大切にしている。			
連携先	地域学校協働本部「かわせみ」			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子供見守り活動」が開始されて以降、本校児童が関係する交通事故や不審者被害がほぼ起こっていない。</li> <li>・登校中に怪我をした児童や、気になった児童の情報をいち早く学校に伝えてくれるので、素早く対応することができた。</li> <li>・保護者や地域の方々から、子供を安心して学校へ行かせられるという声が多く聞かれる。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部の活動に協力してくださっている方々の高齢化が進んでいる。それと同時に、新たな人材を探すことが困難で、なかなか人数を増やすことができない。</li> <li>・コロナ禍により「放課後学習支援」の活動が行えないなど、ここ数年、活動がかなり制限されている。また、マスクの着用により互いの表情が見えず、コミュニケーションがとりづらいとの声がある。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------



活動名	登下校の見守り活動(スクールガード)			
実施箇所名	向山小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の安全確保、学校支援		
	開催日数等	毎日	実施場所	向山小学校区内通学路
	参加児童・生徒数		ボランティア数	22 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が、児童の登下校に合わせて、児童の見守り活動を行っている。またその見守り活動に、ボランティアとして協力していただいている方々をスクールガードとして登録を行っている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガードの方々には、共通のベストや帽子を配布し、身に付けていただいている。</li> <li>・学校の行事予定や各学年の児童の下校時刻を、スクールガードの方々と共有している。</li> <li>・交通安全リーダーと語る会に参加していただき、地域の危険箇所等の助言をいただいている。</li> </ul>			
	連携先	学校、三島市		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、登下校時の交通事故等はゼロであった。</li> <li>・保護者や教員とは違う大人である地域の方々との関わりをもつことにつながっている。</li> <li>・子供たちの登下校時の様子や地域の危険箇所等の情報について、共通理解を図り、対応することができた。</li> <li>・登下校時の子供たちの有事の際に、すぐに対応していただき、助けていただいた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガードの継続的な人材の確保が難しい。</li> <li>・スクールガード用に下校時刻の作成や配布、その他の事務連絡等を行っているため、事務作業に一定の時間を要する。</li> </ul>			
備考				
参考URL				

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

**立ち上げ経緯** 地域学校協働本部が立ち上がる前から図書ボランティア「ウォームハート」が、読み聞かせ等の活動を行っていた。平成27年度に演劇公演を開始した。

<b>活動名</b>	図書ボランティアによる演劇(人形劇)			
<b>実施箇所名</b>	三島市立北上小学校			
<b>活動の概要・特徴・工夫</b>	<b>目的</b>	(例：学校支援、居場所づくり、地域の人材育成、まちづくり等)		
	<b>開催日数等</b>	2日	<b>実施場所</b>	北上小学校体育館
	<b>参加児童・生徒数</b>	350人	<b>ボランティア数</b>	12人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書ボランティア有志による演劇・人形劇</li> <li>・新型コロナウイルス感染症により2年間中断していたが、令和4年度は感染拡大防止対策を講じて実施</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策で人数制限をしたため、2日間の昼休みに実施</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書ボランティアの活動場所を校内に確保し、ボランティアの人たちが活動しやすいようにした。</li> <li>・ボランティアの人たちのやりがいとなるよう、自校だけでなく他校へ活動を広めた。(三島市立徳倉小学校)</li> </ul>			
	<b>連携先</b>	図書ボランティア「ウォームハート」		
<b>活動の成果</b>	<p>・舞台装置・ペープサート・小道具まで本格的な公演を行い、子供たちに大きな感動を届けた。来年も楽しみにしている子供がたくさんいた。</p> <p>30年度:ふじぎなかさやさん 元年度:ニャーゴ 4年度:おあがりやすサンタクロース</p>			
<b>課題等</b>	<p>・新型コロナウイルス感染症により活動ができない期間があった影響もあり、ボランティアの人数が減少し、新規での加入があまりない。新規での人材確保が課題である。</p>			
<b>備考</b>	※図書ボランティアによる演劇(人形劇)は、平成30年度から開始			

参考URL

<https://schit.net/mishima/kitaue-e/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 28 年度

活動名	長伏っ子サポーター作業(草抜き・落ち葉掃き等環境整備)			
実施箇所名	長伏小学校グラウンド・中庭・花壇等			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校支援、地域住民との交流		
	開催日数等	年4回	実施場所	長伏小学校 グラウンド・中庭・花壇・フェンス沿い
	参加児童・生徒数	延50 人	ボランティア数	延150 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 本校は敷地が広く、木々や草花が豊かである。用務員や担当教員のみでは手入れが行き届かない。夏季には道路に張り出した樹木の剪定やグラウンドにまで浸食した草を除去する作業、伸びた草を刈る作業を行い、冬季には大量の落ち葉の除去を中心に活動した。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・軍手や道具、ゴミ袋の他、熱中症対策の水分を用意し、安全に活動できるように配慮した。地域の方が、各ご家庭で利用されている草刈り機等を持ち込んでくださったため、燃料を用意。 ・除去後の草木・落ち葉の運搬を地域学校協働本部の運営関係者が中心となり軽トラックを用いて効率的に運搬した。</p>			
	連携先	地域学校協働本部(長伏っ子サポーター)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの参加者があり、予定していた作業を効率的に短時間で終えることができた。</li> <li>環境が改善され、子どもたちの活動や登下校の安全が一層確保できた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>天候に恵まれたため、本年度は支障が無かったが、悪天候の際の中止連絡の術が学校プログしかない。参加者が多く、年配の方の参加も多いため、SNSを用いた連絡だけでは不十分なことが予想される。</li> </ul>			
備考	※新型ウィルス感染症流行に伴い公民館学習は中止			

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 4 年度

立ち上げ経緯

未来を担う子供達を健やかに育むためには、学校、地域、家庭及び地域住民等がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子供達を育む体制作りが不可欠であると考え、平成21年度に三島市の先陣を切って設立した。

活動名	職業講話・職場体験・未来講座			
実施箇所名	三島市立錦田中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の人材育成		
	開催日数等	1日・2日・1日	実施場所	主に学区内
	参加児童・生徒数	390 人	ボランティア数	延82 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 各学年で計画しているキャリア教育を進めていく上で、「講師」や「受入事業所」が必要になる。それらを保護者や教職員のツテを頼りに、または市からの紹介リストを頼りに見つけていくのだが、学校側の希望どおりにはならないことがある。しかし、地元の人や事業所と幅広いつながりがある支援本部の方々には依頼するとすぐに願いをかなえてくれるのである。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・早い段階で学校からの要望を地域学校協働本部に伝え、協力先を募るようにした。 ・マスク着用、ソーシャルディスタンス、手指消毒等、新型コロナウイルス感染症対策を行った上での実施。</p>			
	連携先	事業所		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちにとって「自分の生き方と社会との関わり」「よりよく生きるために必要なこと」を考える場になった。</li> <li>・地域(の方々)にとって「職業人としてどのように社会貢献したらよいのか」「社会として子どもをどのように育てていったらよいのか」を考えることができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部のメンバーは保護司、民生児童委員の方以外はすべて、歴代のPTA会長を経験された方である。ご子息が卒業後も本校の教育活動に深い理解と愛情をもって支えてくださっている。しかし、現メンバーの方々も高齢になっており、いつまでも携われるとはかぎらない。次世代の学校応援団の方々を早急に発掘することが喫緊の課題である。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 24 年度

立ち上げ経緯

普段学校に足を運ぶ機会が少ない保護者や地域の方々にご参加いただくことで、災害時の助け合いや地域の治安向上を促すことを目的として、生徒・保護者・教職員そして地域住民が、地域奉仕を通じて交流する場を作ろうと、平成24年度から、夏休み前と卒業式前の年2回開催しています。

活動名	『通学路をキラリ！大作戦』			
実施箇所名	三島市立南中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援・地域奉仕		
	開催日数等	10月15日(土)	実施場所	学区全域
	参加児童・生徒数	61人	ボランティア数	20人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南中地域学校協働本部実行委員(南ライオンズ：通称MLS)の企画立案により、学校、地域一体となって交流、活動する取り組みとして年間2回、実施している。学校、地域に参加を呼びかけ、MLSが準備から当日の運営まですべて行い、参加者が一緒になって、校区内の美化活動を通して共に汗を流している。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に回覧板を通して、地域の住民にも広く周知している。</li> <li>本活動が無理なく永年に渡って継続していけるよう、スタッフも含め、参加に際して決して強制はせず、自由意志を尊重している。</li> <li>参加した生徒には、MLS委員長より「ボランティア参加証明書」を発行し、学校で校外活動として認めている。</li> </ul>			
	連携先	学区の各自治会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>南中地域学校協働本部の活動として定着しており、地域の方の中には、この活動を楽しみにして下さっている方もいる。活動のノウハウが蓄積され、地域の方々との連携がより深まった事業となっている。</li> <li>生徒にとって、地域の方々と触れあう場面は貴重な体験であるため、この事業を有効に活用でき、質の高い活動となっている。また、自分たちの暮らす地域に目を向ける格好の場ともなっている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、PTAとの共催等も含め、保護者の参加数を増やす方法を模索している。また、地域の方の参加人数を増やすための方法についても、回覧板やブログの他の方法を探っていきたい。</li> <li>参加者の活動に対する意欲が大変高く、現在の活動時間(準備片付け含め1時間程度)を見直し、活動時間を延ばしていくことも考えていきたい。</li> </ul>			
備考	※今年度、第1回実施予定日7/16(土)雨天の為、10/15(土)に延期実施した。			

参考URL

南中学校ブログ

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-j/m121/>

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	生徒一人一人がの授業理解の向上を図ったり、学習環境を整えたりすることによって、多忙化する職員の軽減がはからればよい。
--------	--

活動名	授業中の生徒支援			
実施箇所名	三島北中学校(家庭科、書写、数学)			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校(生徒)支援		
	開催日数等	家庭科(製作中毎時間)書写(各1時間)数学(来校できる日)	実施場所	各教室
	参加児童・生徒数	400(1・2年)人	ボランティア数	4人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科(1年)の製作では、生徒が針、鋏やミシンなどを安全に扱っているか見守ったり、作業時の困った時に相談にのったりしている。</li> <li>書写の授業(1・2年)では、行書の筆の進め方の実技を見せたり、個々の指導を担当とともに行っている。</li> <li>数学(1年)では、問題を解いた生徒の答えを見て、正解かどうかのアドバイスを行っている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導する担任とサポーターが授業前に打ち合わせをしている。</li> <li>生徒の学習状況を見ながら、アドバイスをしたり、困ったことの相談にのったりしている。</li> <li>1ヶ月単位で、サポーターの支援が得られるか、計画作りをしている。</li> </ul>			
	連携先	三島北中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科では、困った生徒への対応ができ、生徒が製作を進めやすくなった。</li> <li>書写では、筆の進め方の見本を見せることによって、生徒が迷うことなく書き進められるようになった。また、教科担任は、録画したものを生徒に再度見せることができた。</li> <li>数学では、解いた答えをもとに、解き方についてアドバイスがもらえた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>1ヶ月のスケジュールを作るとき、月末から翌月の初めとなり、期間が短く苦勞している。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--



市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

学校支援地域本部の立ち上げ時に、学校が必要とする活動で地域の方がボランティアとして支援できることを考えた。「学習支援」が、その条件に合致したため「基礎学力の補充と3年生の受験に向けた面接練習」を支援することから始めた。

活動名	NGO活動（「なかざと」「がくしゅう」「おたすけたい」の頭文字）			
実施箇所名	三島市立中郷中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	週1回(毎週木曜)	実施場所	学校 進路指導室
	参加児童・生徒数	30 人	ボランティア数	6 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動のない木曜日を5時間授業とし、その放課後に地域住民や大学生が生徒たちの学習を支援している。</li> <li>・生徒が集中して学習できる部屋で自学を進め、その場で質問できる環境を整える。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部が中心になり、コーディネーターに教員OBを配置することにより、地域住民や大学生の参画が可能となった。</li> <li>・三島市生涯学習課との連携、学校PTAとの連携により、地域の大学生のボランティアが増えた。</li> </ul>			
	連携先	なし		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な大学生や地域住民等、保護者や教員以外の大人との関わりをつくる機会となっている。</li> <li>・全学年の希望者が、1つの教室で学ぶことで、お互いに良い刺激を受けている。</li> <li>・大学生や地域住民の長所を活かせる場として、支援する側にとっても有用である。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年を3期に分けて、生徒に募集をかけている。応募生徒の人数によって支援員を配置するため、支援員数が流動的である。</li> </ul>			
備考				

参考URL

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-i/m123>

市町名	三島市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	平成26年度から学校支援地域本部として活動を開始、令和2年度からは、地域と学校とが連携・協働し、地域全体で子供を育てるという視点をもった地域学校協働本部へと発展させ、活動を継続している。
--------	---

活動名	学習支援「英語検定試験の準会場運営」			
実施箇所名	三島市立北上中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	2日	実施場所	三島市立北上中学校
	参加児童・生徒数	63人	ボランティア数	12人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            コロナ禍になり英語検定試験会場が遠方となり、市内や近隣市町での受験が難しくなったことから、北上中学校に通う子どもに受験の機会を作ってあげたいという思いから実施することとなった。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・地域学校協働本部が中心となって、地域住民からもボランティアを募り運営。            ・前年度は、地域の公民館を借り、受験者数は31名。北上中学校を利用することでより多くの子どもの受け入れが可能となった。            ・事前の子どもへのオリエンテーションを設定した。            ・準会場となることで、受験料の負担が軽減された。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定が受けやすくなり、受験者数は63名と大幅に増加し、英語学習への意欲向上につながった。</li> <li>・準会場が中学校となったことで、受験料や送迎など保護者の負担が軽減された。</li> <li>・地域住民のボランティアが参加してくださったことで地域住民との関わりをもつ機会となった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当日キャンセルや初めての受験者への対応</li> <li>・学校の部活動などを確認した上で日程を調整することで、より多くの子どもの受験機会となるようにしたい。</li> <li>・継続的なボランティアの人数の確保。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 27 年度

立ち上げ経緯

災害時に避難所となる地域の公民館の場所を知ることや地域の生徒は地域で育てることを目的として、地域学校協働本部(学校応援団)の主催で始まった。

活動名	中郷西中学校応援団 夏期講習会			
実施箇所名	中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	3日間	実施場所	中学校
	参加児童・生徒数	延べ 89人	ボランティア数	延べ 20人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            コロナ禍以前は、地域の公民館で実施していたが、感染症予防のため、規模を縮小して中学校を会場に、中学生のみを対象として行った。講師は、日頃から放課後学習会を担当していただいている地域の方と教育実習生に限定して行った。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・会場はかつて各地区の公民館を利用していたが、感染症予防のため、中学校で実施した。エアコンも完備されている中、生徒は集中して学習に取り組んだ。            ・学校応援団や自治会の代表の方にも、講習会の様子を参観していただいた。</p>			
	連携先	自治会、中郷西中学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍だが、中止にするのではなく、実施することができた。</li> <li>・地域の代表の方に参観していただき、生徒の様子を知っていただく機会となった。</li> <li>・講師として参加した教育実習生は、生徒との関係づくりができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、教育実習生に講師を依頼したが、毎年講師を確保することが難しい。</li> <li>・学校で開催することで感染症対策と準備等の負担は減少したものの、講師の手配や名簿の作成等、学校側の負担も大きい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

<http://blog.city-mishima.ed.jp/blog-i/m125/>

市町名 三島市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	

実施開始年度 平成 27 年度



活動名	読み聞かせ(山田中学校本読み隊)			
実施箇所名	三島市立山田中学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学習支援		
	開催日数等	11月・2月	実施場所	各教室
	参加児童・生徒数	279 人	ボランティア数	8 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            中学校区の地域の方が例年は年3回(本年度は2回)に3日間来校し読み聞かせを行っている。(その中には在校生の保護者も含む)            教頭と年度が始まってから世話役と連絡を取りながら、それぞれの月及び日に数を調整し実施している。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            基本は世話役の方がすべてを調整し、学校は再確認のみとしている。実施後は必ず振り返りを行い、次回及び他の学年の実施時に生かせるようにしている。</p>			
	連携先	読み聞かせボランティア		
活動の成果	本校の特徴でもあるが毎年、生徒はしっかりと聞くため、短い時間でもとても有意義な時間となっている。実施者の振り返りでも、他のクラスの読み手からも多くの肯定的な意見が出ることで、読み手の継続への意欲にもつながっている。			
課題等	教頭のみならず、司書教諭及び図書担当、図書館司書との連携が課題として挙げられる。生徒は真面目に聞き役になっているが、生徒が生徒に読み聞かせを取り入れるなど、立場を変えての実践も必要と感じる。			
備考				

参考URL

市町名 富士宮市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 30 年度

立ち上げ経緯 当初は、教員が行っていた放課後の学習支援を働き方改革とチーム学校の考えをベースに、地域学校協働本部に移行した。

活動名	ドラえもん教室			
実施箇所名	富士宮市立大宮小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	基礎・基本(読み書き計算)の定着を図り、子どもの学習意欲を高め、自信を持たせるため		
	開催日数等	毎週水曜日 20回程度	実施場所	学校の学習室
	参加児童・生徒数	11人	ボランティア数	6人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域学校協働本部(学校応援団)は、保護者、元保護者、地域の方等80人を超える方が登録している。</li> <li>ドラえもん教室においては、読み書き計算に苦手な部分を持っている子どもが、学習への意欲を高め、自信が持てるような支援をしている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>参加している学校応援団の方への連絡がスムーズにできるように、学校メールを利用している。</li> <li>無理せずできるように、やれることをやるように活動している。</li> </ul>			
	連携先	富士宮市立大宮小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師や保護者とは違う大人に学習を見てもらえることで、子どもたちは授業や家庭とは違った雰囲気の中で楽しく学習に取り組むことができる。</li> <li>子どもたちは、地域の人とつながることができる。</li> <li>子どもたちのペースで学習を進めることができる。</li> <li>教職員にゆとりが生まれ、その時間を有効に利用することができる。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>平日の午後の時間帯ということで、継続的なボランティアの人数確保が難しいため、参加できる児童数が限られてしまう。</li> <li>コロナ禍で、開催回数が減少している。</li> </ul>			
備考				

参考URL

<http://www.fujinomiya-shizuoka.ed.jp/e-school/03omiya/home>

市町名 伊東市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

地元のダイバーさんが富戸地区の小学生の水の事故防止と地元の海等に親しむことをねらいとして始まった。今年で16回目を迎えた。地元のダイバーを中心にインストラクターが1年から6年の児童に「浮いて待て教室(着衣泳)」を実施している。

活動名	着衣泳・シュノーケリング			
実施箇所名	伊東市立富戸小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもの教育活動支援、地域の人材育成		
	開催日数等	7月4日	実施場所	富戸小プール・払港
	参加児童・生徒数	92 人	ボランティア数	15 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 水泳のシーズン期間に1年から6年が着衣泳教室を実施している。今年で16回目を迎える。(毎年1回) プールと払港で体験教室を行っている。 富戸区の人的・環境的な活用を進めている活動である。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・富戸っ子協力員、地域コーディネーターが中心となって、インストラクターの募集、配置等の調整を行い、地域の方々の参画が可能になった。 ・継続して実施しているためインストラクターの着衣泳教室の内容が良くなり児童への対応が年々上手になっている。</p>			
	連携先	株式会社 マリンステージ		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服を着た状態で、不意に海や川へ転落した際にどのような行動をすればよいかわかった。</li> <li>・地域の方々と触れ合うことで、多様な大人から学ぶ機会となった。</li> <li>・富戸の海の豊かさを感じることができた。(地域が学びの場となった)</li> <li>・6年生は6回目なので着衣泳教室を通して水辺の安全教育が醸成されている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インストラクター等の予算確保。</li> <li>・シュノーケリングの器材などの破損に対する修理や購入費用。</li> <li>・実施に向けての打合せ時間の確保。</li> <li>・低学年は、保護者と児童と一緒に着衣泳を学ぶ「親子着衣泳教室」も実施できるのではないか。</li> <li>・天候や海等の自然状況に左右される。</li> <li>・着衣泳でぬれた衣類を持って帰るのに苦労している。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名	裾野市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	区長から、「ベンキがはげてしまった防災倉庫の扉の装飾を中学生にお願いできないか。」という要望を受け、CSディレクター・スクールコーディネーターが学校と地域の橋渡し役となり、中学校の美術部に依頼した。
--------	---

活動名	地域学校協働活動			
実施箇所名	裾野市立東中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域に貢献する(社会奉仕体験)活動を通して、地域のために主体的に活動し、地域への愛着、感謝、地域の大人との交流の意義等を感じることで、将来の地域づくりの担い手としての成長につなげる。		
	開催日数等	週1日(休日)2ヶ月	実施場所	富士見台公園
	参加児童・生徒数	17人	ボランティア数	5人
	<概要・特徴>	中学生が、公園の防災ポンプ格納庫と水飲み場に壁画を描く活動。地域の大人と中学生が壁画のデザインについて相談し、地域の大人が中学生の制作活動をサポートした。		
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学生がデザインのアイデアを出し、地元住民がデザインを選んだり、大人の助言を受けながら活動を進めたりするなど、中学生と大人が対話することに努めた。</li> </ul>		
	連携先	地元自治会、学校運営協議会		
活動の成果	<p>中学生と地域の大人との交流が生まれ、今後の活動の発展につながる活動とった。中学生と大人がともに片付けをしたり、会話も弾むようになり、次第に楽しい雰囲気活動することができるようになった。地域の大人としては、子どもたちが地域にとって頼りになる人材であるということを実感でき、子どもたちに愛情を感じることでできる活動になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生「地域のことをよく知らず不安だったが、優しくしてくれて、交流を持つことができて楽しかった。」</li> <li>地域の大人「子どもたちと親しくなれたことはうれしい。この活動は地域としても大きい。今後も、継続した活動にしたい。」</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>休日の地域の活動であったため、主催者や活動の意義を地域の大人が理解するまでに時間がかかった。協働活動を行うにあたって、地域の大人として、子どもたちとどのような関わりを持つべきか、何をすべきかなどを共有することが重要になる。</li> </ul>			
備考				

参考URL	<a href="https://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/4/2/1/16267.html">https://www.city.susono.shizuoka.jp/soshiki/4/2/1/16267.html</a>
-------	---

市町名	伊豆の国市
-----	-------

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 30 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	教育委員会の諮問「生涯学習の観点から『地域とともにある学校づくり』について」に社会教育委員会が答申したことが契機で、地域学校協働本部の市内モデル校として指定された。地域の学校支援者、区長などの理解を得て、平成30年1月に発足した。
--------	---

活動名	北っ子応援ネットワーク			
実施箇所名	伊豆の国市立大仁北小学校及び同学区			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、地域の人材育成、まちづくり		
	開催日数等	月3回・年間30日程度	実施場所	大仁北小学校
	参加児童・生徒数	239 人	ボランティア数	25 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や行政職員は数年で異動してしまうが、地域住民と地域学校協働活動推進員は長く続けられることから、推進員2名が活動の中心軸として活躍している。</li> <li>・北っ子応援ネットワークの代表は長く関わるが見込める(入学前の幼児がいる)保護者が務め、発足時から安定した運営に寄与している。</li> </ul>			
	<p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校・地域の課題解決について、案件ごとに会の中にプロジェクトチームを組織して少数メンバーで動いており、関係者の負担軽減を図っている。</li> <li>・北っ子応援ネットワークの会合に参画するのは校長と教頭に限定し、教職員の負担が増えないよう配慮している。</li> </ul>			
	連携先	自治会、シニアクラブ、花育ボランティア、おやじの会、スポーツ少年団、交通指導員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童の通学時の安全確保」プロジェクトチームでは、登下校時の危険箇所等に見守りを継続しているほか、グリーンベルトの更新、転落防止柵の設置、歩行者の支障となる標識の移設などを区長を通じて改善要望し、通学路の安全化に取り組んでいる。</li> <li>・「花と緑と環境」プロジェクトチームでは、環境委員会の児童と学校花壇の植え替えや卒業式会場のプランターづくり、長期休暇中の水やり当番等を継続的に実施している。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度から学校運営協議会が発足予定であるため、地域学校協働本部との連携が求められている。</li> <li>・活動が途絶えないよう、地域人材(推進員、運営委員)の次世代育成に取り組む必要がある。</li> </ul>			
備考				
参考URL				



市町名 東伊豆町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 21 年度

活動名	東伊豆町学校支援地域本部事業			
実施箇所名	東伊豆町立熱川小学校・稲取小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	放課後の子供たちの見守り活動、学習支援、学校行事支援		
	開催日数等	熱川小：月火木金 稲取小：水	実施場所	熱川小：図工室 稲取小：理科室
	参加児童・生徒数	熱川小：30 稲取小：15 人/日	ボランティア数	14 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <p>平日の放課後に子供たちの下校見守りを実施し、子供たちの安全の確保に努めている。また、見守りを通して、子どもとボランティア、地域住民とのコミュニケーションの場づくりにもつながっている。</p> <p>学習支援では、学習習慣を身に付けさせるとともに、家庭事情等により家に帰れない子ども（保護者不在等）の居場所づくりにもなっている。</p> <p>また、学校行事の支援では、学校の方針を尊重しながら各種団体と連</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを中心に、ボランティアと相談し、大人が全て教えるのではなく、年上が年下の子の面倒を見るようにしている。</li> <li>・子ども自身、子ども間、家庭の問題にも耳を傾け、子どもの居場所（心の）となるよう心掛けている。</li> </ul>			
	連携先	学校、PTA、社会教育委員会、青少年問題協議会、社会福祉協議会 等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども間や地域の大人とのコミュニケーションがとれるようになり、積極的にあいさつをするようになった。</li> <li>・子どもの話を聞いてあげたり、居場所を作ってあげたことで、子どもの悩みを和らげてあげることができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの高齢化により、新たな人材を募集しているが、なかなか増えない状況であり、いかに若い層の方たちを取り込むかが課題である。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 南伊豆町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 29 年度

立ち上げ経緯

小規模校のデメリットとして、少人数のため人との関わりが少ないことがあげられていた。その解消のために、様々な人との関わり（子供同士だけでなく、地域の人も含めて）を増やしたいと考え、この活動を開始した。

活動名	南上小学校コミュニティ・スクール推進活動			
実施箇所名	南伊豆町立南上小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供たちの学習や体験を充実させるための学校支援活動		
	開催日数等	40日程度	実施場所	南上小学校
	参加児童・生徒数	51人	ボランティア数	30人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; CSコーディネーターを中心に連携して、以下の活動を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちの体験的な活動及び授業の支援活動 (栽培活動：愛国米、麦、サツマイモ、大根等) (体験活動支援：ピザ焼き、漬け物づくり、焼き芋等)</li> <li>環境整備活動(運動場や畑の草刈り作業等)</li> <li>読み聞かせ活動</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちの体験を広げ、様々な人たちと関われるように、担任を通して子供たちの希望などを聞き、活動を工夫している。</li> <li>敷地が広く、すぐにたくさんの草が生えてしまう環境の改善のため、草の繁茂期を中心に草刈りボランティアに依頼しているが、義務化せず、できるときに参加する方式をとっている。</li> <li>伝統の愛国米栽培を継続できるように、作業を補助してくださる方を募っている。</li> </ul>			
	連携先	愛国米保存会・老人会・区長会・南上体験学習サポーター(上サボ)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な体験活動に上サボ、地域指導者等が関わって指導してくださった成果があり、子供たちの体験の幅が広がった。小麦を栽培してピザを焼く活動では、上サボ等の支援がないと実施が難しい。きめ細やかな支援があることでできる体験が増えている。</li> <li>活動を通じた地域の方々との交流がきっかけとなり、登下校で出会ったときに挨拶したり会話したりすることにつながった。</li> <li>草刈りボランティアの活動では、職員の人数が少なくなかなか手が回らないところの整備を助けていただき、子供たちがきれいで安心な環境で生活できている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>フルタイムで仕事をしている人が増えているため、CSコーディネーターや上サボメンバーとして活動してくれる人を探すことが難しくなっている。立ち上げ当初のメンバーのお子さんが卒業した後、その後の活動を引き継いでいく人の確保が難しい。</li> <li>活動を絞りながら、少人数のボランティアでもできる活動を工夫していく必要がある。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 松崎町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 22 年度

立ち上げ経緯

学校統合により学校区が広がり、これまで各学校を支援してきた人たちの情報が不足していた。そのため、学校支援ボランティアの輪を広げ多様な支援を可能とすることで、教員が一人一人の子供と向き合う時間を確保するとともに、地域の教育力の向上を目的としている。

活動名	授業支援・下校支援	
実施箇所名	松崎小学校	
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域ボランティアを募り、学校から要望を聞き取り、プールの授業の見守りや、給食補助、下校支援等を行っている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1回、学校と支援員と打合せ会をして、日程の確認や調整も含めた学校からの要望や、支援員が感じたことを話し合う場を設けている。</li> </ul>	
	連携先	
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の人が学校に入ることによって、子どもたちの普段見えない部分であったり、感じたことを話してくれたりすることもある。先生だけではない、話し相手がいることで、地域とのつながりを作ることができている。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援員の高齢化、育成や確保。</li> </ul>	
備考		

参考URL

市町名	函南町
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	<p>コロナ禍の令和3年度初め、保護者有志によるキッズ・サポーターズ（以下キッサボ）の役員から、子供たちと一緒に楽しく催しを行ってあげたいが今の情勢では行うことが難しい。そこで、学校と一体となって子供たちのために何かできることはないかとの話が持ち上がった。学校から、「何ができるか、わかっていると共に活動しやすくなる」ことを伝えると、キッサボメンバーの職業や日頃の活動をもとに「できることリスト」を作り、学校へデータを送ってくださった。</p>
--------	--

活動名	地域学校協働本部事業			
実施箇所名	函南町立西小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域人材の有効活用		
	開催日数等	7日	実施場所	函南町立西小学校
	参加児童・生徒数	延べ500人	ボランティア数	8人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <p>(1) 令和3年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年社会科「私たちの暮らし」（消防の学習）…本校の子供応援団（キッサボ）のメンバーである杉山哲也さん（駿東田方消防本部）にお願ひし、コロナ禍で見学できなかった消防署のことや消防官の仕事についてスライドを使って解説していただいた。</li> <li>・4、5年持久走指導…キッサボのメンバーである西山洋平さん（元市町対抗駅伝函南町代表選手）と仁藤工雄さん（ST函南団長）のお二人にお願ひし、持久走大会へ向けて走り方、呼吸法などを、実際に体を動かして教わった。</li> <li>・6年図工科絵画指導…キッサボの当時会長であった田中俊光さん（画家T'アートスクール）にお願ひし、6年生図画工作科で絵画指導をお願ひした。</li> </ul> <p>(2) 令和4年度の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生租税教室…キッサボのメンバーであり、三島田方法人会に所属する望月健太郎さん（学校運営協議会委員）に依頼し、6年生社会科の授業で租税教室を行っていただいた。クラス別の授業、計3回にGTとして参加いただいた。主に授業を進める役割を担当していただき、授業を進めた。体験を取り入れた分かりやすい話をしてくださり、子供たちは実感を伴った理解ができた。</li> <li>・4年持久走指導…昨年度にも指導していただいた西山洋平さんにお願ひし、持久走での走り方、呼吸法などを、実際に体を動かして教わった。丁寧な説明と実技に4年生児童は納得しながら、実践へつなげていた。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッサボメンバーの「できることリスト」の活用</li> <li>・キッサボメンバーによるGT授業</li> </ul>			
	連携先	函南町立西小学校 キッズサポーターズ		
	活動の成果	<p>普段行っている教室での学習では味わえない本物にふれる学習をすることで、子供たちは実感を伴った理解をすることができた。</p> <p>例えば、3年生社会科「私たちの暮らし」では、消防官が普段、自らが仕事でつかう防火服・作業着（レスキュー隊の着用服）や実際の現場で使うヘルメットなどを持参し、触れることができた。また、日頃の仕事のルーティーンをスライドを使って説明してくれたり、訓練を実演してくれたりしたことなどで実感を伴う理解につながった。6年生図画工作では、画家である講師（GT）が、消しゴムで絵を描くという子供がこれまで体験したことのない逆転の発想による作品づくりについて実演してくれたり、やり方を説明してくれたりした。その後、子供たちの作品作りへの取り組みを支援した。</p> <p>身近な存在であるGTによる学習支援等は、子供たちに「なるほど、わかった、納得した、もっとやってみよう」という学びの実感を生み出すだけでなく、キャリア教育にもつながっている。</p>		
課題等	「できることリスト」は、現在、教頭が管理しているが、コミュニティ・スクールとして、将来的にはCSディレクターの管理としていきたい。			
備考				

参考URL	<a href="https://www.nishishogakko.com">https://www.nishishogakko.com</a>
-------	---

市町名 清水町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



外国籍の子どもへの学習支援の様子

活動名	地域学校協働活動	
実施箇所名	町内小中学校(清水中・南中・清水小・西小・南小)	
活動の概要・特徴・工夫	目的	未来を担う子どもたちの成長を支え、地域と学校が連携・協働し、「地域とともにある学校づくり」の推進を図る。
	<概要・特徴>	町内の各小中学校に地域学校協働本部を整備し、地域学校協働活動推進員がコーディネート機能を担い、学校との連携を図り、支援員・地域住民等の参画を得て、多様な活動、継続的な活動を行っている。
	<活動上の工夫>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働活動推進員が各学校の実情やニーズ(必要とする支援)を把握し支援活動を展開している。</li> <li>・外国籍の子どもが多い学校では、学習支援を継続的に実施など。</li> <li>・地域学校協働活動推進員のコーディネートにより地域住民(ボランティア)の参画を得て、実習田や野菜づくり、見守り活動を実施。</li> </ul>
	連携先	支援員・地域住民・読み聞かせボランティア等
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の学力等に合わせた学習支援を実施することができている。</li> <li>・地域住民とコミュニケーションをとるきっかけになっている。</li> <li>・体験やミシンなどの家庭科学習支援などは、ボランティアの支援により、教員の負担軽減につながっている。</li> </ul>	
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が抱える課題等は複雑化・多様化しており、各学校単位の地域学校協働本部の組織・運営活動の拡充のための体制の構築・人材確保が課題となっている。</li> <li>・各学校にCSディレクターが配置されていないため、教員の地域学校協働活動推進員との連絡調整や地域学校協働本部の調整事務などの負担が増え、教員の多忙化の軽減につながっていない。</li> </ul>	
備考		
参考URL		

市町名	小山町
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 30 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	小学校の余裕教室等を活用し、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を設けるとともに、学習活動等を通じ地域住民との交流活動の場を提供するため。
--------	--

活動名	「ふるさと金太郎博士」事業			
実施箇所名	小山町内各施設・事業所等			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子供の学習支援、地域住民との交流		
	開催日数等	各地区行事等実施日	実施場所	小山町内各施設・事業所
	参加児童・生徒数	測定不能	ボランティア数	人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <p>○児童生徒は学校から配布された行事一覧表や広報、地区回覧等を見て活動先を選ぶ。専用の手帳を持ちイベントや地域の行事等に参加し、イベント先で印をもらう。(決められた活動先でももらえない場合は保護者が押印。)</p> <p>○行事に参加するごとに、事前に定められた1～3ポイントを獲得。</p> <p>○小学校3年～中学校3年までの6年の間に、銅賞(30P)銀賞(60P)金賞(100P)ふるさと金太郎博士(150P)の表彰を行う。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事予定をもとに、イベント一覧表を配布・掲示し周知していく。</li> <li>・年度初めに、区長会等を通じて区民に、学校を通して児童生徒への説明を行っている。</li> </ul>			
	連携先	教育委員会生涯学習課		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年の実施年数を重ね、学校・家庭・地域に事業が定着してきた。令和4年度末累計で、銅賞230人、銀賞31人、金賞15人、博士5人の受賞者が誕生した。</li> <li>・子供たちが地域に出る機会が増え、地域での体験を通じた学びが充実してきた。また、子供たちの参加が地区行事の活性化につながる。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区行事への参加がきっかけとなり、「中学生ボランティア」への積極的な参加につながっていくとよい。</li> <li>・コロナ禍で地区行事が中止される中、学校内でのボランティア等を推奨する「学校ポイント」を加えたが、学校間格差への配慮が課題となっている。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

2年担任から生活科の学習の中で、地域にある商店等を見学したりインタビューしたりする活動において、地域の方にボランティアとして引率をお願いしたいという要望が出された。また、商店や施設へ見学の依頼について、コーディネーターの方に仲介をお願いしたいという要望も出された。

活動名	2年生活科「まちたんけん」			
実施箇所名	島田市立島田第二小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援(授業支援)		
	開催日数等	2日間	実施場所	島田第二小学区
	参加児童・生徒数	44人	ボランティア数	10人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 学区の商店等について、児童の希望をもとに、和菓子店などの商店、神社、JA等、7つの見学先を決めた。コーディネーターの方に見学先への受け入れ交渉をしていただき、スムーズに見学日時を決定することができた。引率については、担任だけでは足りないため、地域の方々(10名)にボランティアで引率をしていただいた。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; 見学先について、学年児童全員で地域を歩き、児童の興味や関心が高かった商店や施設を選定した。 引率ボランティアの方々には、事前に説明会を行い、活動の目的について担任から詳しく説明を行うことで、活動を効果的に行うことができた。</p>			
	連携先	島二小学区の商店等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7つの商店等が児童の見学を受け入れてくださった。活動の目的をよく理解していただき、簡単な仕事体験をさせてくださった見学場所もあった。</li> <li>・10名のボランティアの方が、それぞれの見学先まで引率してくださった。事前の打ち合わせにおいて、見学の目的をよく理解していただいため、価値のある活動とすることができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目の取組であったため、コーディネーターの方には、見学先との交渉やボランティアの方の確保等、大きな負担をかけた。次年度以降は、今年度に築いたつながりを活かして活動を充実させていきたい。</li> </ul>			
備考	12月に行った授業参観では、2年生が「まちたんけん」のまとめを発表した。見学先の方やボランティアの方にも参観していただくことができた。			

参考URL

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	小学校の授業担当教員からの要望により実施
--------	----------------------

活動名	ミシンでソーイング(ミシン練習・エプロン制作)			
実施箇所名	島田市立島田第三小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	小学校5年生 2クラスのミシン実習授業の補助		
	開催日数等	4日(1日2~3時間)	実施場所	家庭科室
	参加児童・生徒数	45人	ボランティア数	1回3・4人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の家庭科授業「ミシンでソーイング」のミシン実習(2人でミシン1台、アイロン使用)の見守り、補助活動をボランティアが行う。</li> <li>・1クラス20数人の児童に対し、ミシン糸かけから操作練習、エプロンの制作までを1人の担当教員が指導する中、ボランティア1人が児童8人を担当して見守りや助言を行う。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事故のないように見守る。</li> <li>・教員の説明を理解できない児童やミシン操作がうまくできない場合に補助的指導を行う。</li> <li>・ボランティアは、教員の指導内容を理解したうえで、教員の指導内容に沿う活動を心がける。</li> </ul>			
	連携先	民生委員・児童委員		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1クラス20数人の児童を相手に、1人の教員が実技指導を行っており、個々の児童への指導にも時間的限界があり、ボランティアの活動は教員にとっても児童にとっても有益であった。</li> <li>・地域の住民がボランティアとして教育現場に入り、児童と接することにより、学校と地域の親近感が醸成される。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア確保が難しく、工夫が必要である。</li> <li>・児童の保護者へ参加依頼も行ったが、自主的な参加者は1名、1日のみであった。今回はコーディネータの個人的なつてで依頼し、ボランティアを確保した。</li> </ul>			
備考	活動日・内容 ミシン操作練習 9月28日(3時間) ミシン操作練習・エプロン制作 10月5日(2時間)12日(3時間)19日(3時間)			

参考URL	
-------	--



市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

本校では、昨年末より不登校となる児童が増え、安心して自分を発揮できる場の必要性を感じ、校内での支援とともに地域における居場所を検討したいと考えた。

活動名	子供の居場所づくり・学習支援			
実施箇所名	島田市立島田第四小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	校内における子供の実態把握をもとに、島田市福祉館での学習支援を行う		
	開催日数等	25日程	実施場所	校内と地域福祉館
	参加児童・生徒数	5人	ボランティア数	人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校において教室での授業参加等が困難になっている児童の状況を共有し、校外においても学習支援や保護者サポートができることを伝えていく。</li> <li>地域における施設を利用し、そこで学習したり、運動したりすることでストレスを発散し、コミュニケーションをもつ場づくりを考えていきたい。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コーディネーターには学校に定期的に来校してもらい、児童の状況や職員のかかわり、情報共有などを行う。</li> <li>必要に応じて、コーディネーターにはケース会議にも参加してもらい、どんな形で協力してもらえるかを検討する。</li> </ul>			
	連携先	福祉課		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の児童の様子や、職員のかかわりについて理解を深めてもらい、学校がやろうとしていることを価値づけてもらった。</li> <li>学校に足が向かない子供やその保護者にとって、地域に受け入れてもらえる場があるというだけでも安心感につながった。</li> <li>学校へ来ることに抵抗がある子にとって、外に出てみようとするきっかけとなった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供の話をゆっくりと聴いてもらえる場はあった方がよいと考えるが、心身ともに弱っているときにどう関わっていくのがよいのかの判断や声かけには難しい面があり、そのような子供の状況や保護者の気持ちなどを十分に理解してもらえるにはだれでもできるというわけにはいかないため、地域の多くの人にひろげる活動にはならなかった。今後、不登校についての学びの場を保護者、地域に向けて検討する必要がある。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

4年生の総合的な学習では、地域のお年寄りや障害を持つ方、地域に暮らす人々との交流を通して、一人一人がかけがえない存在であることを実感し、自他を大切にしようとする心情を育てることを目標としている。コロナ感染症の影響により対面交流ができないので、コーディネーターに相談したところ、お年寄りの家庭を訪問する民生委員に御協力をいただくアイデアをいただいた。

活動名

お年寄りとの交流(絵手紙)

実施箇所名

島田市立六合小学校

活動の概要・特徴・工夫

目的 福祉教育として地域のお年寄りの方々が幸せを感じる活動をしたい

開催日数等 11月1日 実施場所 六合小学校

参加児童・生徒数 95 人 ボランティア数 23 人

&lt;概要・特徴&gt;

コーディネーターと地域の民生委員の方々と協力し合い、地域に住むご高齢の方々に少しでも喜んで頂けたらと4年生が絵手紙を描き送った。

&lt;活動上の工夫&gt;

- ・コーディネーターに、ご高齢の方を知っている民生委員の方々の協力をいただけるようにしていただいた。
- ・4年生の総合的な学習テーマである「福祉」の学習活動のひとつとして取り入れることができた。

連携先 地域の民生児童委員

活動の成果

- ・地域のお年寄りの方に日々見守られていることを意識し、お年寄りに喜んでもらえるように、秋を題材にした絵手紙と文章を丁寧に書き描いた。
- ・手紙を受け取った地域の方が直接学校に訪れ、届いた絵手紙に夫婦で感動したことを伝えてくれた。

課題等

- ・手紙の交流からはじめ、将来的には実際にふれあう活動へとつなげていきたいと考えている。現在はコロナ感染症もあり、具体的にどんな活動ができるか計画するまでには至っていない。

備考

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

「地域とともにある学校づくり」の理念のもと、小中学校単位で地域学校協働本部及び地域学校協働活動推進員が配置されたことを契機に発足した。

活動名	みんなおいでよ！ぼくたちのまちへ			
実施箇所名	島田市立大津小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、まちづくり		
	開催日数等	11日	実施場所	大津小学校、城山
	参加児童・生徒数	25人	ボランティア数	21人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の児童の思い「大津小の校歌にも歌われている城山について、もっとたくさんの人に知ってもらい、登山をしてほしい。自分たちの手でもっと楽しい城山にしたい。」が実現できるように、広く地域に協力を呼びかけた。</li> <li>・地域の方々も「城山」を大切に思う気持ちには強いものがある。「城山を学ぶ会」「里山どんぐりの会」等、多くの方々賛同し、協力してくださった。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の「人、もの、こと」との関わりを活動の中心に据える。特に、登山道の整備や伐採作業を続けている方々と会い、その思いに触れる場を設定する。</li> <li>・児童の発想や作品（ポスター、チラシ、クイズ、紹介動画、マスコットキャラクター、顔はめパネル等）を尊重し、夢の実現に向けて温かく支援する。</li> <li>・地域ボランティアと学校との打合せ会を設定し、共通理解を図る。</li> </ul>			
	連携先	城山を学ぶ会、里山どんぐりの会、大津自治会、島田市観光協会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生の叶えたい夢を実現するために、地域の方々が進んで動き、応援してくださることを実感し、児童も学校も勇気づけられた感があった。</li> <li>・活動を経て、児童は達成感を味わうとともに、郷土愛を育むことができた。</li> <li>・ゲストティーチャーの授業から、大津の史跡に興味をもつ児童が広がった。</li> <li>・城山登山をした地域の方から感想が寄せられ、まちづくりにつながった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲示板や看板等の設置にあたり、「城山を学ぶ会」が中心となり、廃材を利用して製作に協力してくださった。来年度以降もこのような地域と学校をつなぐ活動を継続していきたいが、材料費の予算付けを考える必要がある。</li> <li>・若い世代からも地域ボランティアを掘り起こし、協力体制を維持したい。</li> <li>・活動を通して得た地域人材を、他学年の活動においても生かしていきたい。</li> </ul>			
備考	授業の打合せ、ゲストティーチャー、登山道整備、伐採、下草刈り、掲示板の製作及び設置(全12回)			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

令和6年度の統合を控え、子供たちに地域のよさを知る・再発見をする機会として、地域の方の橋梁を得て、様々な体験の場、交流の場を提供したいと考え、本活動を立ち上げた。

活動名 地域を知ろう(伊太の梅・いたわり音頭・お正月飾りづくり)

実施箇所名

島田市立伊太小学校

活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	6日	実施場所	島田市立伊太小学校
	参加児童・生徒数	48人	ボランティア数	16人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の特産でもある「梅」の栽培方法やその苦勞を知る。</li> <li>・実際に「梅」の収穫を体験する。</li> <li>・収穫した「梅」を使って「梅ジャムづくり」を体験する。</li> <li>・踊りを覚え、運動会で地域の方と一緒に踊る。</li> <li>・お正月飾りの意義を教えていただき、実際に藁からしめ縄を作り、お正月飾りを作る。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験を重視することで、大切さや大変さを実感させる。</li> <li>・失敗しても子供たちの手でやらせることを重視し、自分で作ったという実感をもたせる。</li> </ul>			
活動の成果	連携先			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方が学校に対して興味・感心を示すようになった。</li> <li>・子供から声をかけられるなど、地域とのつながりが密になった。</li> <li>・保護者からも、地域の方との交流を増やしてほしいという要望があがった。</li> <li>・運動会では保護者だけでなく地域の方もいたわり音頭を踊るために来校された方もたくさんいた。</li> </ul>			
備考	・特になし			

参考URL

ita-e.shimada.ed.jp

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

**立ち上げ経緯** コーディネーターは、地域の史跡や歴史に詳しい方とお聞きしたため、地域を学習の場とした本授業の充実を図るため、学校より依頼し本活動が行われることとなった。

<b>活動名</b>	相賀郷土史跡資料集作成及びそれを活用しての学区探検			
<b>実施箇所名</b>	島田市立相賀小学校			
<b>活動の概要・特徴・工夫</b>	<b>目的</b>	地域を巡っての学習(生活科・総合的な学習)の充実のため		
	<b>開催日数等</b>	4月~10月	<b>実施場所</b>	相賀小学区
	<b>参加児童・生徒数</b>	18人	<b>ボランティア数</b>	1人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相賀小の学区を巡り相賀の自然や史跡の素晴らしさを子供たちが体感する教育活動(生活科・総合的な学習)に活用するために相賀、郷土史跡資料集を作成。</li> <li>相賀地区の探検に同行し、子供たちに史跡(旧相賀小跡地や神社など)について説明。又、相賀の自然を体感させるため、魚とりポイントを案内。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが相賀の何について知りたいのかを担任と事前に話をする機会を設定し学習のねらいや内容を共有し、学習の計画をたてるようにした。</li> <li>子供が探検に行く場所に事前に出向き、安全に活動が行えるよう下準備した。</li> </ul>			
	<b>連携先</b>			
<b>活動の成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成していただいた相賀郷土史跡資料を活用し、子供たちは、実際に相賀地区を巡り、相賀についての学習を深めた。また、紙芝居やポスターなどに学習のまとめを行い有効に資料を活用することができた。</li> <li>コーディネーター自ら、子供たちの探検に同行し、質問に答えていただくことにより、子供たちの学習の質が高まった。</li> </ul>			
<b>課題等</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通しての活動ではないため、後期は活動する機会が少なくなってしまった。今後、学習以外(お花ボランティア・作品展示コーナー設置など)の継続的に活動が行えるようなものについても取り組んでいければと考える。</li> </ul>			
<b>備考</b>				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 地域の歴史や文化、産業などを子供たちに知ってもらいたいと考え、地域の方にそれらをクイズ形式で紹介するものを作ってもらった。

活動名	地域の歴史や文化、産業などの問題作成（神座検定の作成）			
実施箇所名	島田市立神座小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	子供たちが自分の地域を知る		
	開催日数等	—	実施場所	—
	参加児童・生徒数	— 人	ボランティア数	5 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の歴史や文化、産業などをクイズ形式で紹介する検定（問題）と参考資料を作成する。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歴史や文化、産業など地域の特徴について、それぞれの事柄に詳しい人にクイズと参考資料を作成していただいた。コーディネーターはそれらをまとめた。</li> </ul>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供たちが地域に興味をもち、地域を知るきっかけとなった。</li> <li>保護者や地域の方々にとっても、地域を再発見することができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>検定の問題を毎年、少しずつ見直したり、新たなジャンルの問題を作成したりしてマンネリ化しないようにしたい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 4 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	閉校に向けて、地域のよさ(自然・歴史・産業・学校等)について、次世代を担う子どもたちに伝えていくとともに、地域のよさを地域の財産として「伊久美検定」という形に残していくため活動を起こした。
--------	--

活動名	伊久美検定作成委員会			
実施箇所名	島田市立伊久美小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	子どもや保護者に伊久美よさを知ってもらう		
	開催日数等	5日	実施場所	伊久美小学校
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	4人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 伊久美のよさを、児童や保護者に知ってもらうとともに、閉校後も地域の財産として「伊久美検定」という形で活用できるよう残していく。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・伊久美遺産にふさわしい材を地域から集める。集めた材を元に、後世に残したい材を「伊久美検定」という形にしていく。 ・伊久美検定として形にした材については地図に落とし、ウォークラリーができるよう準備を進める。 ・閉校前に検定を実施するとともに、閉校後も活用できるように、「大人の伊久美検定」も作成をする。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで個人が心の中に残っていた伊久美遺産を、「伊久美検定」という形に残すことができた。</li> <li>・ボランティアを始め、閉校後も「伊久美のよさ」を引き続き残していくことができるような組織の元を作ることができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検定実施が来年度を想定しているため、その成果を今後も確認していく必要がある。</li> <li>・「検定」から「ウォークラリー」へと発展させ、より地域の活動へと広げるために、来年度中に子供会との協力体制を作る必要がある。</li> <li>・現在、神座地区も「検定」作成を始めている。伊久身自治会は神座小学区も含んでいるため、神座小・伊久美小の子供会で協力することで、長くこの活動が受け継がれていく方法を模索したい。</li> </ul>			
備考	<p>実施内容</p> <p>第1回 伊久美検定の内容確認(令和4年7月12日)</p> <p>第2回 検定内容の選定(令和4年9月13日《延期》⇒12月16日)</p>			
参考URL				

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 学校の要望から発足

活動名	学習支援ボランティア募集(5年生:家庭科)			
実施箇所名	島田市立初倉小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	地域に眠っている人材発掘・学習支援の充実		
	開催日数等	7月6日~11月24日うち13日間	実施場所	教室及び家庭科室
	参加児童・生徒数	5年生 59人	ボランティア数	延べ45人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 5年生の家庭科にて裁縫・ミシンの基礎を学ぶ学習への支援。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・ボランティア募集のおたより作成。 ・おたよりをさくら連絡網にて配信及び各会館への掲示と設置の依頼。 ・地域の方の集まりに参加。おたよりの配布と活動内容を説明した。</p>			
	連携先	自治会、公民館		
活動の成果	1クラス約2班に1人のボランティアがついて質問に答えたり、危険な作業への注意を払っていただき、裁縫やミシンに初めて取り組む児童が多く悪戦苦闘していたが、わからないと手を止めることなく、安全に学習することができた。			
課題等	いつも同じ方(11名)が来ていたため、さらに多くの方々に学校へ足を運んでいただける様、支援の輪を広げていきたい。			
備考				

参考URL



市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

新年のはじめに心を落ち着かせ、丁寧に字を書く活動を通して、これから始まる新しい年への期待を持たせる目的で、何年も前から継続活動されている。

活動名	校内書き初め会			
実施箇所名	島田市立島田第五小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	1日	実施場所	体育館、教室
	参加児童・生徒数	269人	ボランティア数	1人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童による「書き初め会」を実施。(1、2年生は教室、3年生以上は体育館)</li> <li>・新年を祝いながら、今年も目標をもって生活しようという気持ちを新たにする場としている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部コーディネーターを配置し、準備や片付け及び困っている児童の支援を行える体制をつくった。</li> <li>・学校のホームページで活動の様子を発信した。</li> </ul>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童は練習の成果を発揮しながら、真剣な態度で取り組むことができた。</li> <li>・道具の不具合や汚れ等で困っている児童に、地域学校協働本部コーディネーターが積極的に関わったため、円滑に取り組むことができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の活動を始め、学校の様々な教育活動を地域学校協働本部コーディネーターが地域に発信し、より開かれた学校づくりを目指したい。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 3 年度

立ち上げ経緯 5年生社会科「未来を支える食料生産」の中の「米づくりのさかんな地域」学習において、子供たちに体験を伴った学習を行いたいという学校の要望から実施

活動名	5年生お米作り体験			
実施箇所名	島田市立初倉南小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	5日間(5月～2月)	実施場所	地域の方の田・学校
	参加児童・生徒数	52人	ボランティア数	12人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方に「田」を貸していただき、田植え(5月)、「米づくり」講話(6月)、稲刈り・粃摺り見学(9月)を実施。「田」を貸して下さった地域の方や地元JAの方・生産者女性部の方が講師になってくださる。</li> <li>・地域ボランティアの支援を受け、家庭科で自分達で作ったお米で「ご飯をたく」学習実施(11～2月)。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部コーディネーターが各連携先と連絡をとり、日程調整を行っている。</li> <li>・地域学校協働本部コーディネーターが活動の様子を、校内の地域連携コーナーに写真で紹介している。(学校ホームページでも紹介している。)</li> </ul>			
	連携先	地元農家、JA等		
	活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童にとって、充実した体験学習をすることができ、「米づくりのさかんな地域」の学習を、「自分ごと」として学ぶことにつながった。</li> <li>・地域の方や地元JAの方との連携が深まってきた。</li> </ul>		
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「稲の苗の準備」や「収穫したお米の保管」「生産者との連絡」はJAの方、田植え後の「稲の管理」は、地域の方がしてくださっている。とても大きな支援を受けており、今後も継続していただけるよう、関係づくりをしていくことが必要である。</li> </ul>			
備考				

参考URL <http://hatsunan-e.shimada.ed.jp>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

学校が、学校図書館を豊かな空間にするため、図書館ボランティアの募集を行う。季節の掲示物作成・ブックカバーがけ・本の整理・本の紹介コーナーの設置等が主な仕事である。

活動名	学校図書館ボランティア			
実施箇所名	島田市立六合東小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校図書館の環境整備		
	開催日数等	2か月に1回	実施場所	学校図書館
	参加児童・生徒数	0人	ボランティア数	約15人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館に、季節や学校行事に合った掲示物を貼ることにより、オフィスのような空間を演出することができている。また、季節に合わせた掲示物は、子どもたちの豊かな感性を育むことにも寄与している。</li> <li>教職員の負担軽減にもつながっている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナ禍で、活動が制限されたことから、掲示物のパーツを事前に準備し、各家庭で作成できるよう準備した。それぞれが、完成した掲示物を持ち寄ることにより、学校での活動時間は、貼り替えが主な仕事となり、時間の短縮につながった。また、各家庭で、空いている時間に掲示物を作ることができるため、時間に追われることなく、工夫した掲示物をつくることできる。</li> </ul>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館は、子どもたちの「居場所」になっている。</li> <li>ボランティアさんが気軽に参加できるようになり、新しいメンバーが増えた。</li> <li>ボランティアさんの創意工夫ある掲示物で、学校図書館が季節を感じることができる豊かな空間になっている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>脚立等を使って作業をするため、怪我等をしてしまう心配がある。学校では「ボランティア保険」に入ることを検討している(令和5年以降)。</li> </ul>			
備考				

参考URL

六合東小ホームページ <http://rokuhigashi-e.shimada.ed.jp/>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 2 年度

立ち上げ経緯

市が推進する「夢育・地育」への取組の一環として、コーディネーターとの連携により保護者や地域の方に学習サポートを依頼することで、各活動の充実につなげていきたいと考え、実施し始めた。

活動名	学習活動サポート			
実施箇所名	島田市立金谷小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援		
	開催日数等	延べ20日	実施場所	金谷小学校・学区
	参加児童・生徒数	520 人	ボランティア数	延べ15 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            子供たちの夢や地域愛を育む機会として、コーディネーターとの連携により、保護者や地域の方に各学年の学習活動をサポートしていただいている。3年度からは、卒業生を招いての活動も試みている。サポーターの募集方法については、コーディネーターがGoogleformsを活用している。            例：2年生地域探検ガイド、高学年ミシンサポート、低学年ICTサポート            中高学年ネットモラル講座、5年生防災講座、6年生未来授業</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・学習や活動のねらいに照らし合わせて、それらの充実をはかるために、地域から適任者を選定して進めている。</p>			
	連携先			
活動の成果	それぞれの活動にあった知見や経験、スキルをもったサポーターの方々の協力により、各活動が充実した。また、保護者や地域の方の協力に感謝する心が育まれたり、地域の魅力を再発見したりする機会となり、地域への愛着形成につながっていると感じられる。			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動サポートに関する年間計画を明確にしていく必要性を感じる。</li> <li>・コロナなどの影響で、学習活動時期の変更等があると、サポートを受けられなくなる場合がある。</li> </ul>			
備考	活動の様子を学校ホームページや学校便りで紹介している。			

参考URL

<http://kanava-e.shimada.ed.jp/>

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 2 年度

立ち上げ経緯

「総合的な学習の時間」の授業で「自分の住む地域」を知る学びの手段として立ち上げた。

活動名	地域の名人さん			
実施箇所名	島田市立五和小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域の文化に触れる 地域の人々との交流		
	開催日数等	7月5日	実施場所	一般教室・特別教室
	参加児童・生徒数	63 人	ボランティア数	9 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;            地域の特色を生かした活動をしている人たちの話を聞くことで、児童が自分の地域の文化を知り、その理解を深める。本年度は、合格駅を軸として地域活性化に尽力する方、地域由来の方法による陶芸家、駄菓子屋、りんご園の経営者などを招聘した。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;            ・児童一人一人の興味・関心に基づき、学年を6つのグループに分け、興味のある話をじっくり聞けるよう時間に余裕をもった。            ・活動終了後、児童が、感想やメッセージを手紙にし、講師の方々に届けた。</p>			
	連携先			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童は興味を持って講師の話に聞き入り、活発に質問をする姿が見られた。</li> <li>児童は講師の方々の思いや願いを理解し、地域のために貢献することが価値あることであると感じとっていた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動そのものの意識付けや、地域の人・もの・文化への興味のもたせ方に課題がある。あらかじめ興味・関心を高め、地域とのつながりについて考える質問事項をまとめておくなど、児童自身の動きを多くすることで、「総合的な学習の時間」としての活動の価値が高まり、児童の意識も「講話」を聞くという受動的なものからさらに主体的なものにかわると思われる。地域に自分から働きかける体験にできるかが今後の大きな課題である。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 2 年度

立ち上げ経緯

新型コロナウイルス感染症の影響で休校になった。密を避けるため、今までやってきた数多くの活動が全てできなくなった。感染を避けてでもできる活動を校長と相談して探した。休校中の学校で、コーディネーターと業務員の2人だけで、種まきから始めた。

活動名	川根の未来のたねを育てよう有志の会			
実施箇所名	島田市立川根小学校・川根中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	環境の美化、地域と児童生徒・教職員との交流、支援、協働		
	開催日数等	10日間程度、適宜	実施場所	川根小・川根中
	参加児童・生徒数	15 人	ボランティア数	20~30 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 新型コロナウイルス感染症の影響で、今まで通りの活動ができなくなった時、校内の花壇を整備する活動を始めた。設備や人、お金がないから活動できないのではなく、地域と学校で語り合い、できることを探した。新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況下でも、地域と学校が協働して新しい活動を始めることができた。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・活動を広げるために、地域包括支援センターや花の会など、様々な機関に声をかけた。</p>			
	連携先	グループホーム、PTA、更生保護女性会、保護者、NPO法人、社会福祉協議会		
活動の成果	<p>・花壇に花を植えるだけでなく、花壇をつくることを地域の方々にお願した。地域の方々が重機を出し、大勢で学校の花壇を作った。その後、活動者を増やすことができた。</p>			
課題等	<p>・交流、協働の輪をもっと広げ、目的は支援ではなく、交流から協働へという活動の趣旨を教職員に理解してもらうことである。</p>			
備考				

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯

島田第二中学校の重要課題の一つに不登校が挙げられる。孤立しがちな登校に悩みを抱える保護者が、モヤモヤした気持ちを話したり、聞いたりできる集う場が必要であると考えたため。

活動名	二中しゃべり場			
実施箇所名	島田市立島田第二中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	登校に悩みを抱える保護者の居場所づくり		
	開催日数等	3日	実施場所	島田第二中学校
	参加保護者数	10人	ボランティア数	10人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登校に悩みを抱える保護者が集まり、フリートーク、情報交換を行う。</li> <li>ココミラ島田とも協力し、ココミラ島田のコーディネーターも参加する。</li> <li>申し込みは不要で、途中入室、退室も認める。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ココミラ島田のコーディネーターと協力することで、場の作り方などを教えていただき、活動している。</li> <li>生徒の目につかない二中体育館にある会議室を利用することで、参加しやすい状況を作っている。</li> <li>参加者はニックネームで呼び合うなど、プライバシーに配慮している。</li> </ul>			
	連携先	ココミラ島田		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度より実施し、初年度は年間3回を予定している。</li> <li>参加した保護者は、不安な気持ちを吐露したり、お互いに情報交換したりできている。ある保護者は、1カ月に1回は開催してほしいというくらい好評である。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者の固定化が見られる。</li> <li>個人情報の保護に配慮が必要である。</li> </ul>			
備考	第1回：7月4日 第2回：11月28日 第3回：2月8日			

参考URL

市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 学校と地域学校協働本部コーディネーターとの協議による。

活動名	夏の学習支援			
実施箇所名	島田市立六合中学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校(学習)支援		
	開催日数等	7/12(火)~15(金)	実施場所	六合公民館
	参加児童・生徒数	37 人	ボランティア数	8 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアの数と参加生徒数のバランスを考慮し、生徒のニーズに応じた学習支援を目指した活動である。</li> <li>自分の住んでいる地区に、家族や先生以外にも自分を応援してくれる大人がいることを感じる機会となることを願った。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の特徴から、元教員を中心にボランティアを募った。</li> <li>生徒が夏季休業中の学習に見通しをもてるように、実施時期を夏季休業の直前に設定した。</li> </ul>			
	連携先	六合公民館(通称:ロクティ)		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後アンケートにおいて、参加37人のうち33人が「学習支援は自分の勉強に役立った」「地域の方と交流できてよかった」と回答した。</li> <li>その他、「すごくわかりやすかった」「授業が楽しくなった」「自分の力で解けるようになった」など、肯定的な感想が目立った。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施の可否はもちろん、参加人数や会場の決定など、新型コロナウイルス感染状況の影響を受けること。</li> <li>ボランティアの方と打ち合わせする時間が限られるため、ボランティアの力量に頼る部分が多いこと。</li> </ul>			
備考				

参考URL



市町名 島田市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 初倉地区小中一貫教育推進のため、組織体制づくりの1つとして活用。地域と学校をつなぐ中心として位置づけている。

活動名	職場体験学習			
実施箇所名	島田市立初倉中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域人材・資源の有効活用		
	開催日数等	10/24~26	実施場所	島田・牧之原市内各所
	参加児童・生徒数	2年生115人	ボランティア数	38事業所
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域学校協働本部コーディネーターに職場体験場所を探していただいた。</li> <li>・地域学校協働本部コーディネーターに職場体験学習前、職業講話の講師を探していただき、講演会を開催した。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職場体験場所・職業講話の講師依頼については、できるだけ生徒にとって身近に感じられるように、居住地域(初倉地区内)を対象に探してもらった。</li> </ul>			
	連携先	初倉公民館、地元企業、初倉小学校、初倉南小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校職員だけでは新規開拓できない新規の職場体験に協力していただける事業所を紹介していただき、身近なところにも知らない企業があることを知り、生徒の体験できる分野が広がった。</li> <li>・学校職員の一部負担軽減にもつながった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなことをどこまで協力していただくかを事前にしっかりと決めていなかったため、コーディネーターと前年度末または、年度当初にしっかりと打合せを行うことが必要だった。</li> <li>・1学年だけでなく、他学年への協力もしていただけるように、学校側も窓口の教員を置き、コーディネーター側からも声を掛けやすい体制をつくることも必要と考える。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名	島田市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	令和 2 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	金谷中学校では、自立貢献できる生徒の育成を目指し、特に生徒の主体性を育む教育活動に力を入れている。この目的の達成のために、総合的な学習の時間の取組として、「金谷元気プロジェクト(KGP)」を計画した。KGPは、金谷地区等の事業所から与えられた課題(ミッション)を仲間と一緒に解決しようとする主体的・協働的な活動を通して、生徒の創造力・問題解決能力、コミュニケーション能力を醸成し、生徒の主体性の向上につなげている。
--------	---

活動名	「課題探究学習～金谷元気プロジェクト(KGP)～」			
実施箇所名	島田市立金谷中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	まちづくり(地域活性化)、生徒の主体性の育成		
	開催日数等	4月～11月	実施場所	中学校、各事業所
	参加児童・生徒数	170 人	ボランティア数	6 事業所
	<p>&lt;KGPの流れ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 事業所講話Ⅰを受け、複数の事業所からミッションをもらう。</li> <li>② ミッションを解決するための方法と手順を個人やグループで探り、資料作りに取り組む。</li> <li>③ 同じミッション同士で学習成果発表Ⅰを行う。</li> <li>④ 学習成果発表Ⅰを基に、学習成果の内容を修正する。</li> <li>⑤ 事業所の方々に学習成果発表Ⅱを行い、事業所講話Ⅱを受ける。</li> <li>⑥ 優秀だったグループのプレゼンを聞く。また、下級生に発表する。</li> </ol>			
	<p>&lt;活動上の工夫・連携先&gt;</p> <p>本年度、事業所から受けたミッションは以下のとおりである。なお、事業所との連絡調整は、職場体験学習と同じように地域協働学校本部コーディネーターが行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● さわやかウォーキング企画 (JR東海 様)</li> <li>● 東海道金谷宿お休み処の活用方法 (島田市商工会 様)</li> <li>● おしまちゃんサイクルラックを広めるには (島田市商工会 様)</li> <li>● かなやあんぱんの販売強化 (特定非営利活動法人こころ・りなむ 様)</li> <li>● 木こりの積み木ランドを使って、木都島田を世界に発信 (落合製材所 様)</li> <li>● KADODEOOIGAWAや島田市の発展のためにできることを考えよう (KADODEOOIGAWA様)</li> </ul>			
連携先	市内事業所			
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の主体性を育むために有効な活動となった。</li> </ul> <p>&lt;生徒の感想&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の地域には何があるのか、それをどう生かせばよりよい町になるのかを考え、自分の意見を積極的に伝えることが地域を活性化させるためには必要だと思った。</li> <li>・ 自分たちの提案が実際に反映されると考えると、とても大変だったけど楽しかったし人生の良い経験になった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の事業所に理解や協力を得ることに時間がかかり、コーディネーターによる調整も難しい。</li> <li>・ 事業所から与えられたテーマであったため、生徒がどれだけ課題意識をもって活動に臨むことができていたのかを評価することが困難である。</li> </ul>			
備考				

参考URL	<a href="http://kanaya-jh.shimada.ed.jp/">http://kanaya-jh.shimada.ed.jp/</a>
-------	---

市町名 掛川市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 25 年度

立ち上げ経緯 掛川市では、平成25年度に保幼小中の連携強化と地域による園・学校支援体制を強化するため、「学園化構想」を立ち上げた。その一つが桜が丘中学校区子ども育成支援協議会（桜が丘学園）である。

活動名	桜が丘中学校区子ども育成支援協議会（桜が丘学園）			
実施箇所名	桜が丘中学校、桜木小学校、和田岡小学校、桜木こども園、桜木こどもの森、こども広場あんり			
活動の概要・特徴・工夫	目的	学校支援、協働活動、まちづくり		
	開催日数等 (R3年度実績)	846日	実施場所	桜が丘中学校、桜木小学校、和田岡小学校、桜木こども園、桜木こどもの森、こども広場あんり
	参加児童・生徒数 (R3年度実績)	1,509人	ボランティア数 (R3年度実績)	4,730人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ボランティアによる学校支援活動だけでなく、地域貢献活動も実施（部活動単位でが地域貢献活動として奉仕作業等を行う「一部一ボランティア」活動等）。</li> <li>・区長会やまちづくり協議会等の地区組織と連携したあいさつ運動を実施。</li> <li>・新型コロナウイルスの流行が始まった令和2年度から、地域ボランティアによる消毒作業がスタートされ、部活がある日に定期的実施（令和4年度末に終了）。</li> <li>・地域の豊富な人材による学校支援活動（読み聞かせ、畑の先生、ミシンボランティア等）。</li> <li>・中学校の卒業式では「感謝のつどい」の時間が設けられ、卒業生が3年間の感謝の気持ちを込めて、お世話になった地域の方（来賓に加え消毒ボランティアの方も招待して）に合唱を披露した。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が地域の支援を必要としたときにいつでも相談できるように、地域コーディネーターのPRを積極的に行っている。</li> <li>・地域コーディネーターの得意な分野を活かした支援を実施している。</li> <li>・地域ボランティアや園・学校には、丁寧なお願いとお礼を心掛ける。</li> </ul>			
	連携先	区長会、まちづくり協議会、シニアクラブ、食生活改善推進員協議会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園・学校の業務負担軽減につながった。</li> <li>・先生も地域のことについて興味を持つようになった。（先生からの提案で、子どもだけでなく、先生を対象とした地域の歴史を学ぶ会を実施した）</li> <li>・地域住民の地域学校協働活動に対する理解が深まった。</li> <li>・中学校を卒業した卒業生が消毒ボランティアに参加した。</li> <li>・地域ボランティアの年齢層が広がったことにより、様々な人とのつながりが増えた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地区組織との連携の取り方が難しい。</li> <li>・ボランティアが固定化されている。</li> <li>・地域コーディネーターの後継者が見つからない。</li> </ul>			
備考	令和2年度に『「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰』を受賞。			

参考URL [city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/8422.html](http://city.kakegawa.shizuoka.jp/gyosei/docs/8422.html)

市町名 藤枝市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 25 年度

立ち上げ経緯	藤枝市では、平成22年度より、教員が一人ひとりに対するきめ細やかな指導をする時間の確保を図るため、地域全体で学校教育を支援し、多様な形態の教員支援を可能とすることを目的とした「学校支援地域本部事業」を実施。平成25年度に名称を「学校サポーターズクラブ」と改め、事業の拡大を図る際、広幡中学校区の地域住民の協力を得て、同中学校区に導入。【藤枝市広幡中学校区】
--------	--

活動名	授業支援（家庭科ミシンボランティア）			
実施箇所名	藤枝市立広幡小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	授業支援		
	開催日数等	12日	実施場所	家庭科室
	参加児童・生徒数	161人	ボランティア数	16人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <p>広幡小5・6年生が、ミシンを使い「ランチョンマット、エプロン、トートバック」を製作する授業。 初めてミシンを扱うため、子どもたちには、正しく安全にミシンを操作することが求められる。 そこで、サポーターの皆さんが授業者の指導通りに子どもたちが活動できているかを見守りながら、糸の通し方、手の置き方、布の送り方など、支援が必要と思われる場面を中心に適切な支援を行った。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <p>・子どもたちの主体的な活動を邪魔しないため、サポーターが教えすぎない、手を出しすぎないということを心得、子どもの様子や理解の様子を観察しながら必要と思われる支援をするよう、事前に打合せを行った。</p>			
	連携先	広幡中学校区学校サポーターズクラブコーディネーターと学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターが見守ってくださっているので子どもたちは安心して活動に専念することができた。</li> <li>・作業には個人差があるが、サポーターの支援によってスムーズに作業が進んだ。</li> <li>・毎年かかわってくださっているので、サポーターの方は支援の仕方を心得ている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポーターの高齢化と人材の拡大。</li> <li>・ミシンを扱う授業は時期が集中するためサポーターを確保することが難しいときがある。</li> <li>・打合せ時間の確保。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 御前崎市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



地域住民が小学校のクラブ活動を支援

実施開始年度 平成 21 年度

立ち上げ経緯

国の方針や地域の実態を踏まえ「学校支援地域本部」を立ち上げた。その後、学校支援を中心に事業を行っている。

活動名	はばたき先生～クラブ活動支援ボランティア～			
実施箇所名	御前崎市立白羽小学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域人材を活用した学校支援		
	開催日数等	年8回	実施場所	小学校
	参加児童・生徒数	約140人	ボランティア数	9人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校のクラブ活動にボランティアを派遣し、児童に直接支援を行う。手芸、貝細工、自然観察、流木アート、絵手紙、パソコンなどのクラブの支援を担当する。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部が事前にボランティアを募集して登録を行う。登録の際に、支援が可能な分野などの情報を収集し、学校の要望にあった人材を派遣できるように調整している。ボランティアの方の得意とすることが生かされるように配置している。</li> </ul>			
	連携先	学校支援ボランティア(事前登録)、企業、学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材を活用することで、さまざまな分野で支援が可能となり、児童にとって多様な学びの機会となっている。</li> <li>・学校職員だけでは賅うことができない支援をボランティアによって補うことができている。</li> <li>・地域住民と児童の交流の場となっている。児童にとって、普段関わりが少ない大人とコミュニケーションをとる機会となっている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日14:35～15:35に活動があるので、対応できるボランティアに限りがある。そのため、学校からの要望にすべて答えられているわけではない。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 菊川市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

活動名	クミアイ化学工業株式会社との連携			
実施箇所名	加茂小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	地域企業との連携		
	開催日数等	1日	実施場所	小学校
	参加児童・生徒数	78人	ボランティア数	人
	<概要・特徴> ・社会科での米作りの学習と関連付けて行った「食料生産と地球を守る話」の出前授業。 ・主な内容は、害虫や病気から稲を守る農薬の話、自ら動き回る「豆粒剤」使用の体験、害虫のついた苗や葉の観察等。			
	連携先			
活動の成果	・社会科のよい補充学習ができた。 ・SDGsにつながる企業努力を知り、地域の企業への誇りをもつことができた。また、自分も社会に貢献しようという意識を高めることができた。			
課題等	・今回の方法でも多くの学びがあったが、直接訪問すればさらに学びが深まるのではないかと考える。ただ、児童数が多いだけにコロナ禍の終息が見えない中での実施が難しいかもしれない。			
備考				

参考URL

市町名 牧之原市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 令和 4 年度

立ち上げ経緯 4年生の授業の一環でそばの種植えに挑戦することになり、そば作りに精通した地域住民にボランティア講師を依頼した。

活動名	牧之原小学校授業支援			
実施箇所名	牧之原市菊川市学校組合立牧之原小学校			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	授業支援		
	開催日数等	2日	実施場所	牧之原小学校
	参加児童・生徒数	30人	ボランティア数	4人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 4年生の授業でそばの種植えに挑戦したが、一度目は芽が出ずに終わってしまった。リベンジそば植えを行うにあたり、地域学校協働活動推進員が地域住民に声掛けし、そば作りに精通したボランティアに講師を依頼した。子どもたちはボランティア講師にアドバイスをもらいながら種を植え、無事発芽したそばの実を後日収穫した。地域住民の支援を受け、自分たちで種から育てたそばの実でそばを作った。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; ・牧之原市は各小学校に1人ずつ地域学校協働活動推進員を配置している。今回の活動は小学校の推進員同士で情報交換を行い、別の学区で活動をしている地域人材にボランティア講師を依頼した。</p>			
	連携先	牧之原市立萩間小学校		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもと地域住民が交流することが出来た。</li> <li>学区外からのボランティアを募ることで、学校と地域とのつながりの輪が広がった。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>外での活動は天気に左右されるため、日程調整に苦慮することがある。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 川根本町

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



どきどんの池での昆虫採集

実施開始年度 平成 4 年度

活動名	川根本町地域学校協働本部 (わんぱくチャレンジスクール)			
実施箇所名	町内小学校他			
活動の概要・ 特徴・工夫	目的	学校支援、地域の人材育成		
	開催日数等	7月23日	実施場所	町内小学校他
	参加児童・生徒数	141 人	ボランティア数	33 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から地域学校協働活動を試行的に開始。通常は、町内4小学校、2中学校にて活動を行っている。</li> <li>自らが企画運営した「わんぱくチャレンジスクール」を実施し、大盛況を得た。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4名の推進員等の活動を共有するため、週1回はスタッフ打合せを行っている。</li> </ul>			
	連携先	地元住民、企業		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校の要望を柔軟に受け、地域の方へ繋げることができている。</li> <li>「わんぱくチャレンジスクール」では、地域の方をスペシャルティーチャーとして招き、10種以上の体験活動を児童へ提供することができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度は試行的な運用で手探り状態だった。令和5年度から本格的に運用予定であるが、それぞれの役割等の細かい部分を徹底し活動してもらう必要がある。</li> </ul>			
備考				

参考URL



市町名	磐田市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 28 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	市内全小中学校をコミュニティ・スクールに指定するとともに、各校に地域学校協働本部を立ち上げた。
--------	---

活動名	腰みのづくり			
実施箇所名	城山中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	まちづくり(伝統文化の継承)		
	開催日数等	9月1日・8日	実施場所	体育館
	参加児童・生徒数	262 人	ボランティア数	30 人
	<概要・特徴> 国指定重要無形民俗文化財「見付天神裸祭」の継承のため、裸祭保存会員及びPTA学年委員(1年)の協力を受け、裸祭で身につける腰みのづくりに取り組んでいる。地域学習の一環として総合的な学習の時間のカリキュラムに位置付け、地域の伝統文化の継承とともに郷土愛を育てている。			
	<活動上の工夫> ・腰みを作る前に地域学習を実施し、地域の伝統行事について理解を深める機会を設けている。 ・PTA学年委員も積極的に腰みのづくりに関わることができるように、事前に腰みのづくり練習会を実施している。 ・裸祭の3日前に行われる浜垢離(祭りの参加者の心身を清める行事)に生徒が参加できるように、水曜日を「ふるさとの日」として学校を休みにしている。			
	連携先	見付天神裸祭保存会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見付地区の2大行事「いわた大祭り」「見付天神裸祭」を通して、総合的な学習の時間を活用して地域学習を進めることで、地域の伝統文化への理解を深めるとともに郷土愛を育むことができた。</li> <li>・腰みのづくりを通して裸祭保存会員やPTA学年委員の方々と接することで、地域の方々に支えられていることを生徒が実感し感謝の気持ちをもつことができた。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の協力者となってくれる地域人材の確保が課題である。</li> <li>・腰みのづくりは当初の計画通りに実施できたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、地域との関わりの深い教育活動が中止や延期、実施形態の変更等の対応になることがあった。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名	袋井市
-----	-----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度	平成 26 年度
--------	----------

立ち上げ経緯	地域の有志が、夏の暑い中草取りをする先生の姿を見て「幼稚園・小学校の先生に教育に専念してもらいたい。自分たちに何かできることはないか」という思いから独自に立ち上げた。仲間に声を掛けて会員を募り、活動の幅を広げた。
--------	--

活動名	今井幼・小応援する会 各種活動			
実施箇所名	袋井市立今井小学校、今井幼稚園			
活動の概要・特徴・工夫	目的	小学校・幼稚園の体験活動の企画・運営、授業補助、環境整備、見守り等		
	開催日数等	年間40日以上	実施場所	小学校、幼稚園等
	参加児童・生徒数	261 人	ボランティア数	51 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>稲作やサツマイモづくりなどの農作業、川の清掃活動や稚鮎の放流などの環境保護活動を年間通して行うなど、子どもたちとともにダイナミックな体験活動を展開。環境整備や、授業補助、見守りなどきめ細かな支援活動も幅広く実施している。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、学校、幼稚園と定期的に打合せ会を開催し、必要な活動について計画的に情報共有しながら進めている。</li> <li>会員が運営経費として年会費を拠出してボランティアに参加している。</li> </ul>			
	連携先	今井コミュニティセンター等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちにとって、様々な体験につながっており、郷土愛や地域貢献への意欲の醸成に役立っている。</li> <li>会員にとって、子どもとの交流がやりがいにつながっており、参加を楽しみにしている。</li> <li>幼稚園や学校にとって、要望に応じてもらえることや、環境を整備してもらえることで、教育活動に専念できる。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校や園と意思統一しながら活動を進めていくことの大切さを感じている。</li> <li>結果はすぐには出なくても、子どもたちが大きく成長した時に、今の活動が必ず糧になることを願って活動している。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--

市町名 袋井市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



実施開始年度 平成 29 年度

立ち上げ経緯 しずおか寺子屋事業(県)の補助を受けて発足し、事業終了後もボランティアが子どもたちにとって必要な活動と考え、声を掛け合って継続して活動している。

活動名	南の丘寺子屋			
実施箇所名	袋井市立袋井南中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	中学生への放課後学習支援		
	開催日数等	月2回・年21回	実施場所	中学校木工室・金工室等
	参加児童・生徒数	35 人	ボランティア数	5 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校配置の地域学校協働活動推進員と学園(中学校区)配置のコミュニティスクールディレクターが協働で学習支援活動を運営することで、学校と地域の連絡調整がスムーズになり、円滑な運営が行われている。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で計画を立てて学習し、ボランティアは生徒の必要感に応じて個別に支援している。</li> <li>・ICTを効果的に活用し、タブレット端末内のアプリでの学習にも取り組んだ。</li> </ul>			
	連携先	市内コミュニティセンター等		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の支援が行われることにより、学ぶことの楽しさを感じることができた生徒や、主体的に学習に取り組む生徒が増えた。</li> <li>・参加を楽しみにしている生徒が多い。</li> <li>・学校の教育活動と連携した支援が行われている。</li> <li>・生徒との交流により、ボランティアのやりがいにつながっている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部に私語が増えたり集中を欠いたりする生徒がいる。</li> <li>・大学生のボランティアも募集しているが、ボランティアの広がりが見られない。</li> </ul>			
備考				

参考URL

市町名 湖西市

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



ボランティアに見守られながらウォークする生徒たち

実施開始年度 平成 22 年度

立ち上げ経緯

地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、多様な形態で教員支援を可能とし、子どもと向き合う時間の拡充を図るため。

活動名	浜名湖遊覧ウォーク			
実施箇所名	白須賀中学校から浜名湖周辺			
活動の概要・特徴・工夫	目的	体験を通じて地域を学びます。		
	開催日数等	1日	実施場所	学校～浜名湖周辺
	参加児童・生徒数	93人	ボランティア数	36人
	<p>&lt;概要・特徴&gt; 浜松市北区三ヶ日から西区舘山寺までは湖上を遊覧船で、舘山寺から中学校までの約23kmは徒歩による踏破を目指します。 また、普段から知っている場所であっても、徒歩によって自身が直接その場へ行くことによって、見聞が深まることを目指します。</p> <p>&lt;活動上の工夫&gt; 地域コーディネーターが調整して、地域の様々な人たちの協力のもと、普段経験できないようなことを体験できるように準備しました。また、生徒が安全に活動できるように、事前に保護者ボランティアへの役割の調整をしました。</p>			
	連携先	保護者ボランティア、コース上の施設(休憩・トイレ)		
活動の成果	学校で普段学べない地域のことを見聞して、生徒たちも貴重な体験ができて喜んでいました。			
課題等	ボランティアの確保。			
備考				

参考URL

市町名	森町
-----	----

地域学校協働本部	○
放課後子供教室等(学習支援・体験活動)	
家庭教育支援	
その他(通学合宿等)	



入学式に彩りを添えるチューリップ

実施開始年度	令和 3 年度
--------	---------

立ち上げ経緯	コミュニティ・スクールの導入に合わせて教育委員会に地域学校協働本部を設置し、各学校へ地域学校協働活動推進員を配置した。学校毎工夫した活動が行われている。
--------	--

活動名	まごころプランター			
実施箇所名	森町立旭が丘中学校			
活動の概要・特徴・工夫	目的	地域とともにある学校づくり		
	開催日数等	11月・12月・3月	実施場所	学校・家庭
	参加児童・生徒数	25 人	ボランティア数	30 人
	<p>&lt;概要・特徴&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライオンズクラブから寄贈された球根と社協の補助金で購入したプランター・用土を活用し、生徒・保護者・町内会のボランティアを募り花を育てる活動。</li> <li>生徒…学校で植え付けと管理を行い、卒業式前に保育体験でお世話になった幼稚園・保育園へ届ける。</li> <li>保護者…各家庭で大切に育ててもらい、卒業式・入学式に校内へ飾る。</li> <li>町内会…残った球根やパンジー苗をプランターへ植えてもらい、校内へ飾る。</li> </ul> <p>&lt;活動上の工夫&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「できる人が できるときに できることを」行うので、無理なく行えている。</li> <li>保護者が育てたチューリップには、球根等と一緒に配布したメッセージカードに温かい言葉が添えられ、心温まる活動になっている。</li> </ul>			
	連携先	森町ライオンズクラブ、グリーンバンク、PTA、森町社会福祉協議会、町内会		
活動の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>協力したい気持ちをもちながら、学校に出向くことができないためボランティア活動に参加できなかった方でも取り組むことができる活動となっている。</li> <li>生徒自身も花を通してお世話になった幼稚園・保育園への感謝の気持ちを表すことができている。</li> </ul>			
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や保護者の中にいる協力ができる人に情報が届くよう、案内や周知の方法に工夫が必要だと感じている。</li> </ul>			
備考				

参考URL	
-------	--